

【NOTE】

矢田部良吉資料目録 付・著作目録

有賀 暢 迪¹・太田 由 佳²

¹ 国立科学博物館理工学研究部研究員
〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1

² 国立科学博物館理工学研究部協力研究員

A Catalog of Ryokichi Yatabe Papers with a List of Yatabe's Works

Nobumichi ARIGA* and Yuka OHTA

Department of Science and Engineering, National Museum of Nature and Science,
4-1-1 Amakubo, Tsukuba, Ibaraki 305-0005, Japan

* e-mail: n-ariga@kahaku.go.jp

Abstract This article provides a catalog of the archival materials of Ryokichi Yatabe (1851–1899) held by the National Museum of Nature and Science (NMNS). Yatabe was a botanist and educator who was active in the early Meiji period, and the authors documented his life in our previous study. To complement the preceding biographical outline, here, we publish a catalog of the Ryokichi Yatabe Papers. The materials were donated to the NMNS in 1975 by his relatives and then organized, and a simple list of items was compiled. Our new catalog, which is intended to replace the old list, catalogs 313 items classified into ten categories such as notebooks, manuscripts, and letters. We provide a brief description and an item list for each category and added further explanations for some items. A list of Yatabe's published works is also included as an appendix, which was essential for identifying his manuscript.

Key words: Ryokichi Yatabe, archival materials

1. はじめに

矢田部良吉（1851–1899）は、明治時代前半に活躍した植物学者・教育者である。明治初年にアメリカに渡ってコーネル大学で植物学を専攻し、帰国後、新設された東京大学の初代植物学教授となった。研究者として第一級の業績を挙げたというよりも、大学での講義や標本室の整備、学会の設立・運営などを通じて、欧米式の植物学研究の制度的基盤を日本に導入する上で重要な役割を果たした人物であった。またそれに止まらず、女子教育や盲聾教育を含む教育活動に熱心に取り組み、さらには新体詩運動やローマ字普及活動の先頭に立つなど、いわゆる文明開化の時代の知識人

として幅広く活躍した。

矢田部の没後、自宅に遺されていた個人文書などは、1975年になって、親族から国立科学博物館（以下、科博）に寄贈された¹⁾。これは、科博の前身である「教育博物館」が1877（明治10）年に開館した際、矢田部が館長を務めていたという縁による。この資料群（以下、矢田部良吉資料）はその後、工学研究部（当時）の中川徹らによって整理され、その概要が『科学史研究』誌上に公表された（以下、これを中川目録と呼ぶ²⁾。本稿は、この目録の増補改訂版であり、それを置き換えることを意図して執筆・公表するものである。

2. 本目録の考え方

中川目録では、矢田部良吉資料の総点数は244点とされ、次の通り分類されていた。この分け方は、資料の内容や主題よりはむしろ外観や形態に着目したものと言える。

- I. 著書・翻訳書類〔9点〕
- II. 雑誌類〔6点〕
- III. 日記類〔16点〕
- IV. ノート類〔45点〕
- V. 詩稿・手帳類〔4点〕
- VI. 原稿類〔100点〕
- VII. ノート用紙類〔10点〕
- VIII. 絵図類〔4点〕
- IX. 弔辞類〔13点〕
- X. 辞令、その他〔9点〕
- XI. 手紙類〔28点〕

各資料には、この分類に基づき、I-1のように記号・番号が付けられた（本稿では読みやすくするために、本文中では囲み文字で表記する）。目録項目としては、この記号・番号のほか、資料名と備考（簡単な注記）があるのみであった。

筆者らは、この資料群の再整理と矢田部良吉の伝記的研究を目的として、個々の資料にあらためて目を通し、より詳しく記述することを試みた。同時に、矢田部の著作やその他の史料・文献にもとづき、矢田部の詳細な年譜を作成した（以下、『年譜』として参照する）³⁾。この作業の結果、かなりの数の資料について、同定や年代推定が可能となった。このように、本目録と年譜は補い合う関係にあるため、利用に当たっては両方を同時に参照していただきたい。

各資料の記号・番号は、極力変更しないことが望ましいと考えられたため、今回の目録でも基本的に踏襲した。ただし、中川目録においては1点となっていた原稿類・ノート用紙類が実際にはさらに複数に分けられる事例や、ノートの中に無関係と思われる紙片が挟まっている事例などでは、それらを別の資料として記載することにし、記号・番号を新たに付した。この結果、本目録での資料点数は計313点となった。なおこの中には、近年になって購入した資料が1点含まれるが、これには寄贈資料に与えられたのとは別の記号(Ex)を設定した。

目録の項目は、「記号・番号」のほか、「形態・数量」、「表題」、「年代」、「内容注記」を基本とし

た。ただし資料の性質によって、一部異なる項目を設定した。「表題」は、原則として資料本体に書かれている文言を意味し、筆者らが資料の内容などに基づき補った場合には、[] によって示した。

中川目録では資料が上述のI～XIのように分類されていたが、個々の資料を検討した結果、適切でない分類に入れられているものが一部に見受けられた。また、目録の一覧性を高めるためには、原稿などを主題別に分けたほうがよいと考えられた。このため、本目録では各資料の記号・番号を維持する一方で、分類の仕方については若干の変更を加え、次のように分けて記述・解説することにした。

- A. 書籍・写本類〔23点〕
- B. 日記・手帳類〔21点〕
- C. ノート類（留学）〔13点〕
- D. ノート類（大学）〔32点〕
- E. 原稿類（植物学）〔91点〕
- F. 原稿類（学務）〔13点〕
- G. 原稿類（教育・時事）〔68点〕
- H. 辞令・文書類〔9点〕
- I. 書簡類〔29点〕
- J. 弔辞・墓碑銘類〔14点〕

目録本編となる次節では、類別ごとに概要を述べ、資料の一覧を示す。その上で、特に必要な資料について補足説明を与える。なお、とりわけ原稿類の同定では矢田部の著作の情報が重要であるため、本稿の付録として、筆者らの調査過程で作成した著作目録を掲載する。

3. 資料目録・解説

A. 書籍・写本類〔表1〕

ここには、中川目録の「I. 著書・翻訳書類」「II. 雑誌類」に加えて、「VIII. 絵図類」の一部を含めた。これらは本資料群のうち、刊本および写本と考えられる資料である。ただし、死後出版された『日本植物編』I-1～4が含まれていることから見て、厳密な意味での矢田部の旧蔵書ではないと推測され、蔵書印や矢田部の書き込みと見られるものも確認されていない。また、同じものが複数冊あったり、生前の著書で含まれていないものがあつたりするなど、どのような意図で選別され、残っていたかは判然としない。

『Rōmaji zasshi』II-1～6は、矢田部が幹事を務め

表1 書籍・写本類

記号・番号	形態・数量	表題	著者	出版／書写年	内容注記
I-1～4	洋装本・4冊	日本植物編 第一冊	矢田部良吉（編纂）	1900（明治33）	同一本が4冊ある。うち2冊には「贈呈」と書かれた表題紙が ^a 付属する。
I-5	洋装本・1冊	日本植物名彙	松村任三（編纂）、 矢田部良吉（閲）	1884（明治17）	
I-6,7	洋装本・2冊	植物学初歩	J. D. Hooker（著）、 矢田部良吉（訳）	1891（明治24）	同一本が2冊ある。
I-8,9	洋装本・2冊	動物学初歩	E. S. Morse（著）、 矢田部良吉（訳）	1888（明治21）	同一本が2冊ある。
II-1	洋装本・1冊	Rōmaji Zassi Dai 1 Satsu	羅馬字会発行	1887（明治20）	第1号～第19号（明治18年6月～19年12月）を収める。
II-2	洋装本・1冊	Rōmaji Zassi Dai 2 Satsu	羅馬字会発行	1888（明治21）	第20号～第31号（明治20年1月～12月）を収める。
II-3,4	洋装本・2冊	Rōmaji Zassi Dai 3 Satsu	羅馬字会発行	1889（明治22）	第32号～第43号（明治21年1月～12月）を収める。同一本が2冊ある。
II-5	洋装本・1冊	Rōmaji Zassi Dai 4 Satsu	羅馬字会発行	1890（明治23）か	第44号～第55号（明治22年1月～12月）を収める。奥付に出版年月の記載なし。
II-6	洋装本・1冊	Rōmaji Zassi Dai 5 Satsu	羅馬字会発行	1891（明治24）か	第56号～第67号（明治23年1月～12月）を収める。奥付に出版年月の記載なし。
VIII-2A	半紙・1枚	朝鮮人参一科 全備之絵図	不明	不明	墨筆、彩色図。
VIII-2B	半紙・1枚	杼人参一科 全備之絵図	不明	不明	墨筆、彩色図。
VIII-2C	半紙・1枚	朝鮮人参一枝五葉並花実之絵図	不明	不明	墨筆、彩色図。
VIII-2D	半紙・1枚	本邦吉野産竹節大人参一枝七葉並花実之図	不明	不明	墨筆、彩色図。
VIII-2E	半紙・1枚	龍舌草 水オ、バコ	不明	不明	墨筆、彩色図。
VIII-3	紙綴綴・1冊	本草図譜 卷之十	岩崎灌園（著）、 書写人不明	1890（明治23）か	柱記に「矢田部氏蔵書」とある用箋。彩色。
VIII-4	紙綴綴・1冊	本草図譜 卷之十一	岩崎灌園（著）、 書写人不明	1890（明治23）か	柱記に「矢田部氏蔵書」とある用箋。彩色。
Ex-1	洋装本・1冊	Spiers & Surenne's French Pronouncing Dictionary	by A. Spiers; carefully rev., corr. and enl. by G. P. Quackenbos	1872	New York: D. Appleton and Co. 刊。仏英辞典（前半）と英仏辞典（後半）を合本したもので、それぞれに表題紙がある。資料表題は背表紙による。

る羅馬字会が発行した雑誌である（『年譜』1884年12月～85年6月参照）。1885（明治18）年6月から92年12月にかけて全7冊（91号）が刊行され、各冊の巻頭を飾る論説はすべて矢田部が手がけている。同誌は発行部数が次第に減っていったものか、現在、第4冊以降を揃いで所蔵する国内機関は見当たらない。第5冊（67号）までとはいえ、欠本なく揃っていることは貴重である。

[VIII-2A～E]および[VIII-3～4]は、いずれも料紙（和紙）に墨筆、彩色を施した写本資料であり、前近代的な本草学に関係するという点が矢田部良吉資料のなかでは異色である。[VIII-2A～E]は中川目

録では一括されていたが、相互の関係が不明であるため今回はあえて個別に記載した。何らかの写本の断片と考えられるが、原本等は未詳である。

[VIII-3～4]は、岩崎灌園『本草図譜』（1828年成立）の部分写本である。匡郭（外枠の線）、無界（無罫）、柱（版心）に「矢田部氏蔵書」とのみ刷られた用箋を用い、筆運びはかなり精巧である。矢田部が自身の蔵書にしようという意図をもって、しかるべき描き手に写させたものと考えるのが妥当であろう。資料そのものに写し手の手がかりは乏しいが、1890（明治23）年11月26日、田中長嶺（1849～1922）から『本草図譜』の写本を受

表2 日記・手帳類

記号 -番号	形態・数量	表題	年	内容注記
III-1	和装本・1冊	箱根行日記 ／伊香保行日記	1884／85 (明治17／18)	前半(箱根行日記)は明治17年8月6日から9月4日まで、 後半(伊香保行日記)は明治18年8月7日から9月7日まで記す。
III-2	和装本・1冊	四国行日記 ／宮下行日記	1888(明治21)	前半(四国行日記)は明治21年7月16日から8月17日まで、 後半(宮下行日記)は明治21年8月25日から9月7日まで記す。
III-3	和装本・1冊	白山行日記 ／九州巡回日記	1881／82 (明治14／15)	前半(白山行日記)は明治14年7月22日から8月5日まで、 後半(九州巡回日記)は明治15年7月12日から8月3日まで記す。
III-4	日記帳・1冊	当用日記	1882(明治15)	1月1日から4月3日まで記す。ただし2、3月は白紙が多い。
III-5	日記帳・1冊	当用日記	1883(明治16)	1月1日から12月31日まで記す。ただし白紙あり。
III-6	日記帳・1冊	当用日記	1884(明治17)	1月1日から12月31日まで記す。ただし7、8月は白紙。
III-7	日記帳・1冊	当用日記	1885(明治18)	1月1日から12月31日まで記す。ただし8月7日から9月6日までは白紙。
III-8	日記帳・1冊	当用日記	1886(明治19)	1月1日から10月3日まで記す。ただし白紙が多い。
III-9	日記帳・1冊	当用日記	1887(明治20)	1月1日から12月31日まで記す。ただし白紙あり。
III-10	日記帳・1冊	当用日記	1888(明治21)	1月1日から10月29日まで記す。ただし7月から9月にかけて白紙が多い。
III-11	日記帳・1冊	当用日記	1889(明治22)	1月1日から12月31日まで記す。ただし2月21日から8月23日まで は白紙が多い。
III-12	日記帳・1冊	当用日記	1890(明治23)	1月1日から12月31日まで記す。ただし7月12日から8月23日まで は白紙。
III-13	日記帳・1冊	当用日記	1891(明治24)	1月1日から12月31日まで記す。
III-14	日記帳・1冊	当用日記	1892(明治25)	1月1日から12月31日まで記す。
III-15	日記帳・1冊	当用日記	1893(明治26)	1月1日から5月25日まで記す。
III-16	和装本・1冊	日記	1899(明治32)	1月1日から8月2日まで記す。
V-1	紙綴綴・1冊	詩稿	1862(文久2)	4巻に分け、春夏秋冬の詩作を収める。奥書2篇あり、文久2年に沼 津で書かれたことが分かる。
V-2	紙綴綴・1冊	詩稿	1864(文久4)	墨付4丁、他は白紙。裏表紙に「甲子之首夏」とあり、文久4年の作 と見られる。
V-3	手帳・1冊	北海道旅行日誌	1878(明治11)	明治11年7月12日から8月27日まで記す。
V-4	手帳・1冊	[雑録]	不明	表題および年記なし。内容は雑多で、書名(和学関係)のリストなど を含む。
X-8	紙綴綴・1冊	矢田部洋行中諸留	1870～71 (明治3～4)	明治3年12月2日付で出した書状から、 明治4年4月12日に受け取った書状までを含む。

け取っていることが日記に確認され、本資料である可能性が高い(『年譜』参照)。その頃、矢田部はちょうど自著『日本植物図解』の執筆にとりかかっていたが、同書には『本草図譜』も参照されており、筆をすすめる過程でそれを座右に置く必要が生じたことは十分に考えられる。ただし、矢田部と田中との関係、また、写本を作成したのが田中本人であるのか、あるいは田中がさらに別人に作らせたのかなど、不明点はなお多い。

総じて、欧米流の近代的な植物学教育を受けた矢田部の目に、これら近世本草学の成果がどのように映っていたかは、検討に値する問題であろう。

[Ex-1]は例外的に、親族からの寄贈でなく、後からコレクションに追加した資料である。2016年に古書店の商品目録に掲載されていたのを発見し、購入した。本資料は仏英・英仏辞典であり、前遊び紙に、「R. Yatabe // September 1872 // At Ithaca, New York // U. S. A.」の書き込みがある(//は改行を表す)。1872年9月は矢田部がコーネル大学に入学し、最初の学期が始まった月であるため、大学でのフランス語の授業のために求めたものと推察される(『年譜』参照)。なお、この辞書は出版年の異なる版が国立国会図書館や多くの大学図書館で所蔵されているが、オンライン目録で確認す

表3 ノート類 (留学)

記号 -番号	表題	年	内容注記
IV-27	Analytical Geometry of Three Dimensions	1874 (明治7) か	表紙に「Cornell University」の印字がある。
IV-28	Lectures on Human Physiology and Hygiene	1872~73 (明治5~6)	表紙に「Cornell University」の印字がある。 標記講義のシラバス (Fall Trimester, 1872-3) が冒頭に挟み込まれている。 本文では、ヒトの器官や組織について、多数の図入りで記す。
IV-29	[Ancient History]	1873 (明治6)	冒頭にコーネル大学の試験問題冊子が挟み込まれており、 「College of History, Freshman Class」「Spring Term, June 18, 1873」とある。 本文の内容は古代史で、「April 16」から「June 13」までの日付がある。
IV-30	[Zoology and Rhetoric]	1873 (明治6)	冒頭に、コーネル大学の「Rhetoric」の試験問題と、 「Synopsis of Lectures on Zoology」(by Ch. Fred. Hartt) が挟み込まれている。 本文の前半は「Zoology」と題され、「1873 Jan. 10」から「March 3」まで記入。 後半は「Rhetoric」で、「April 10, 1873」から「June 10」までの日付がある。
IV-31	Vegetable Physiology	1875 (明治8) か	Ithacaの製造業者のラベルがあることから、留学時代のノートと考えられる。 内容は植物生理学が中心で、「Lecture I」から「Lecture XXX」まで。
IV-32	Notes of a Course of Lectures upon Physics	1874 (明治7)	「Prof. W. A. Anthony」によるコーネル大学の講義 (1874年)。 見開き左頁にレジメが印刷されており、右頁にノートが取られている。 内容は力学、熱、電磁気、音、光。
IV-33	[Mathematics and English Composition]	1871 (明治4) か	「Colenso's Elements of Algebra」, 「An Exercise in English Composition」などの文言が見える。
IV-37	[Cryptogams]	1875 (明治8) か	Ithacaの製造業者のラベルがあることから、留学時代のノートと考えられる。 内容は隠花植物学で、「Lecture I」から「Lecture XVII」まで。
IV-38	[Exercises in Latin. II]	1871 (明治4) か	「Page 208 Exer. 7」から「Ex. 39. Page 239」まで、英語とラテン語の短文が並ぶ。
IV-39	[Exercises in Latin. I]	1871 (明治4) か	「Exer. 7. Page 24」から「Page 110 Exer. 78」まで、英語とラテン語の短文が並ぶ。 加えて、代数の計算問題も少し含む。
IV-40	[Literature and Agriculture]	1876 (明治9)	本文は4つの部分に分かれている。 第2の部分に「Winter Term, 1876」、第3の部分に「Spring Term, 1876」とある。 最初の3つは文学あるいは文学史に関する内容で、最後の部分は農学を扱っている。
IV-41	Systematic Botany	1875 (明治8) か	本文冒頭に「Systematic Botany」という題があり、 以下「Lecture I」から「Lecture XXVIII」までを含む。
IV-42	[Exercises in French]	1872~73 (明治5~6) か	「Exercise 74」から「Exercise 196」まで、フランス語の短文が並ぶ。 別人のサインが数箇所あり、「Nov. 25」「Jan. 21」「Jan. 28」の日付がある。

る限り、1872年版を所蔵する国内機関は見当たらない。

B. 日記・手帳類 [表2]

本資料群の中でも特に私的な記録としての性格が強い資料である。中川目録の「III. 日記類」「V. 詩稿・手帳類」のほか、「X. 辞令、その他」の中の1点もここに含めるのが適当と判断した。

日記の類は、大判の当用日記帳 (鉛筆、ペンおよび毛筆書き) が1882 (明治15) 年から93 (明治26) 年まで揃うほか (III-4~15), 国内各地への採集旅行時の記録である和綴じの帳面 (毛筆書き) が3点ある (III-1~3)。当用日記への記入が夏な

どにまとまって欠落するのは、旅行などで東京を離れ、その間は帳面などに記録をつけていたためであろう。これらの日記は、中野による大学史研究に用いられ⁴⁾、また、筆者らの『年譜』において大いに活用した。ただし、東京大学を非職となって以降、高等師範時代については没年のものが1冊伝わるのみで (III-16)、この時期の矢田部の活動については不明点が多い。

V-3は、モース (Edward Sylvester Morse, 1838-1925) が企画した北海道への標本採集旅行に同行した際の記録である (『年譜』1878年7月13日の項を参照)。本資料は磯野のモース伝の中で活用され、多く引用されている⁵⁾。

表4 ノート類 (大学)

記号 -番号	表題	年	内容注記
IV-1	Physiological Botany. Vol. I	不明	「Lecture I. The Elementary Constituents of the Food of Plants」から「Lecture V」の途中までを収める。
IV-2	Physiological Botany. Vol. II	不明	「Lecture V」の途中から「Lecture VI」までを収める。
IV-3	Natural Orders. I	1878 (明治11)	内題「APGAR'S PLANT ANALYSIS」. 専用のフォームに植物標本を記述したもの。「SCIENTIFIC DEPARTMENT OF TOKIO DAIGAKU. [皇紀] 2538」とある。
IV-4	Natural Orders. II	1878 (明治11)	同上。
IV-5	Natural Orders. III	1878 (明治11)	同上。
IV-6	Systematic Botany. Vol. I	不明	「I. Ranunculaceae」(キンボウゲ科) から「XXII. Sterculiaceae」(アオギリ科) までを収める。
IV-7	Systematic Botany. Vol. II	不明	「XXIII. Tiliaceae」(シナノキ科) から「XLIV. Hamamelideae」(マンサク科) までを収める。
IV-8	Systematic Botany. Vol. III	不明	「XLV. Halorageae」(アリノトウグサ科) から「LXX. Jasmineae」(ソケイ連) までを収める。
IV-9	Systematic Botany. Vol. IV	不明	「LXXI. Apocynaceae」(キョウチクトウ科) から「C. Aristolochiaceae」(ウマノスズクサ科) までを収める。
IV-10	Systematic Botany. Vol. V	不明	「CI. Euphorbiaceae」(トウダイグサ科) から「CXXII. Hydrocharideae」(トチカガミ科) までを収める。
IV-11	Systematic Botany. Vol. VI	不明	前半は「CXXIII. Scitamineae or Zingiberaceae」(ショウガ科) から「CXXVIII. Gramineae」(イネ科) までを収める。 後半は「Vascular Cryptogams」(血管隠花植物) について図入りで記す。
IV-12	Systematic Botany. Vol. VII	不明	【IV-11】の続きから始まり、 次いで「Cellular Cryptogams」(細胞隠花植物) について記す。
IV-13	Systematic Botany. Vol. VIII	不明	「Fungi (continued)」(菌類) から始まり、 次いで「Algae」(藻類) について記す。
IV-14	Structural Botany. Vol. I	不明	「Lecture I. Introductory Remarks」から始まり、 「Lecture X. The Construction of the Plants out of Cells (Continued)」の途中までを収める。
IV-15	Structural Botany. Vol. II	不明	Lecture X の途中から始まり、 「Lecture XVIII. The Stem (Continued)」の途中までを収める。
IV-16	Structural Botany. Vol. III	不明	Lecture XVIII の途中から始まり、 「Lecture XXIII. The Leaf (Continued)」の途中までを収める。
IV-17	Structural Botany. Vol. IV	不明	Lecture XXIII の途中から始まり、 「Lecture XXVII. The Flower (Continued)」の途中までを収める。
IV-18	Structural Botany. Vol. V	不明	Lecture XXVII の途中から始まり、 「Lecture XXIX. The Essential Organs of Flowers (Continued)」までを収める。
IV-19	Structural Botany. Vol. VI	不明	「Lecture XXX. The Essential Organs of Flowers (Continued)」から始まり、 「Lecture XXXIII. The Kinds of Fruit」の途中までを収める。
IV-20	Structural Botany. Vol. VII	不明	「Lecture XXXIII (Continued)」から始まり、 「Lecture XXXV. Reproductive Organs of Cryptogams」の途中までを収める。
IV-21	Structural Botany. Vol. VIII	不明	Lecture XXXV の途中から始まり、 「Lecture XXXV [sic]. Botanical Classification」までを収める。
IV-22	LIST OF PLANTS; Studied at Tokio Daigaku 1878 A	1878 (明治11)	植物採集の記録で、No. 1 から 309 まで記す。 4月7日から6月28日にかけて「植物園」ほかで採集したもの。
IV-23	LIST OF PLANTS; Studied at Tokio Daigaku 1878 B	1878 (明治11)	植物採集の記録で、No. 1 から 112 まで記す。 9月12日から10月17日にかけて「植物園」で採集したもの。

表4 続き

記号 -番号	表題	年	内容注記
IV-24	LIST OF PLANTS; Studied at Tokio Daigaku 1879 A	1879 (明治12)	植物採集の記録で、No. 1 から322まで記す。 3月19日から6月8日にかけて各地で採集したもの。
IV-25	LIST OF PLANTS; Studied at Tokio Daigaku 1879 B	1879 (明治12)	植物採集の記録で、No. 323 から645まで記す。 6月8日から7月31日にかけて各地で採集したもの。
IV-26	LIST OF PLANTS; Studied at Tokio Daigaku 1880 I	1880 (明治13)	植物採集の記録で、No. 1 から295まで記す。 2月23日から5月7日にかけて各地で採集したもの。
IV-34	[授業登録者名簿]	1890 (明治23)	表紙に「Science College./Prof. Yatabe./23 nen 9 gatsu」とある。 授業科目名と、登録者と思しき氏名(計7名)のみが書かれている。
IV-35	Miscellaneous Notes	1881 (明治14)	本文中に「On the 13th of Feb. 1881...」とある。「 <i>Ophioglossum vulgatum</i> 」, 「 <i>Filices</i> 」, 「 <i>Ferns of Bonin Islands</i> 」などの小見出しがある。
IV-36	Miscellaneous	不明	「 <i>Species and Genera</i> 」, 「 <i>Adaptations of Flowers for Allogamy or Intercrossing</i> 」, 「 <i>Assimilation and Metastasis</i> 」などの小見出しがある。
IV-43	[Genera and Species]	不明	内容は植物の属や種についてで、「 <i>Hook. syn. Fil.</i> 」を多く参照している。 ノートの大部分は白紙。
IV-44	[Descriptions of Plants]	1879 (明治12)	「 <i>Carex</i> 」(スゲ)を始めとする数点の植物について、日付・採集地とともに記述している。日付はいずれも1879年5月で、最初の記述には「 <i>Uyeno</i> 」とある。
IV-45	各地植物目録	1890~91 (明治23~24)	「美濃国恵那郡明智町近辺植物目録」を始めとする、いくつかの小目録 を収める。第三回内国勸業博覧会(明治23年)に出品された海藻類や、明 治24年に個人より寄送された地衣類などがある。

C. ノート類(留学)〔表3〕

この類別と次の「D. ノート類(大学)」は、中川目録の「IV. ノート類」を内容によって二つに分けたものである。形態としてはどちらも洋式のノートであり、大部分は英文・横書きで、ペンで書かれている。本類別にはそのうち、留学時代(1870~76年)のものと思われる資料を含めた。これらのノートとアメリカでの修学、特にコーネル大学のカリキュラムとの関係については、『年譜』での分析を参照されたい(一部の資料の年代推定は、この考証に基づく)。

〔IV-31〕と〔IV-37〕は、表紙の裏側にイサカの同じ業者のラベルが貼られているため、近い時期に購入して使用されたと思われる。〔IV-41〕については、留学時代のものであるという根拠を本文中に見出せていないが、紙とインクの質感がほかのノートとよく似ているため、同時期のものと推定した。この3点は、コーネル大学に保存されている卒業論文(『年譜』参照)とともに、矢田部がアメリカで学んだ植物学の内容を考察する材料となると考えられる。なお、このうち〔IV-31〕と、動物学のノートである〔IV-30〕(正確にはその前半部)については、鈴木らによる検討がある^{6), 7), 8)}。

D. ノート類(大学)〔表4〕

ここに挙げたノート類は、資料中に年記を見出せないものが多いが、総じて東大の教授時代のものではないかと思われる。ほぼすべてが植物学に関する内容である。

「Natural Orders」と題された〔IV-3~5〕と、「LIST OF PLANTS; Studied at Tokio Daigaku」の表題を持つ〔IV-22~26〕は、植物標本や植物採集の記録であり、それに特化した形式のノートになっている。いずれも、東京大学の創立から浅い明治10年代初頭の年記がある。当時の採集標本が東京大学に保管されていれば、対応付けが可能であるかもしれない。〔IV-44〕はこれらと異なり、通常の横罫ノートに書かれたメモ書きのようにも見受けられるが、内容としては同時期の植物採集の記録である。なお関連して、当時の標本ラベル〔IV-28#〕(表5に掲載)も新たに発見されたことを付記しておく。

「Physiological Botany」〔IV-1~2〕, 「Systematic Botany」〔IV-6~13〕, 「Structural Botany」〔VI-14~21〕という三つのシリーズのノートは年記をまったく欠いているため、確定的な判断を下すのは難しいが、東京大学で行った講義のノートではないかと思われる。参考のために一つだけ例を挙げれば、矢田部の明治11年度の授業報告には、「生物学第

表5 原稿類 (植物学)

記号 - 番号	形態・数量	表題	年代
VI-1	原稿用紙 (仮綴)・30枚	遷進論 一	不明
VI-2	原稿用紙 (仮綴)・38枚	生物進化論 二	不明
VI-3	原稿用紙 (仮綴)・28枚	生物進化論	不明
VI-4	原稿用紙 (仮綴)・42枚	地質学略説 一	不明
VI-5	半紙 (仮綴)・30枚	進化論 講義第一	不明
VI-6	半紙 (仮綴)・36枚	[進化論] 第二章	不明
VI-7	半紙 (仮綴)・24枚	[進化論] 第三章	不明
VI-8	原稿用紙 (仮綴)・19枚	日本植物編 矢田部良吉編著	1892 (明治25) 頃か
VI-9	原稿用紙 (仮綴)・44枚	日本植物編 一	1892 (明治25) 頃か
VI-10	原稿用紙 (仮綴)・42枚	日本植物編 二	1892 (明治25) 頃か
VI-11	原稿用紙 (仮綴)・41枚	日本植物編 三	1892 (明治25) 頃か
VI-12	原稿用紙 (仮綴)・56枚	日本植物編 四	1892 (明治25) 頃か
VI-13	原稿用紙 (仮綴)・44枚	日本植物編 五	1892 (明治25) 頃か
VI-14	原稿用紙 (仮綴)・75枚	[日本植物編] 第三十九科 Leguminosae 荳科	1892 (明治25) 頃か
VI-15	原稿用紙 (仮綴)・4枚	[日本植物編] 用例	1892 (明治25) 頃か
VI-16	原稿用紙・16枚	[日本植物編] 第三十九科 Leguminosae 荳科	1892 (明治25) 頃か
VI-17	原稿用紙 (仮綴)・2枚	[植物学初步] 目次	1891 (明治24) 頃か
VI-18	原稿用紙 (仮綴)・12枚+半紙1枚	[植物学初步] [28~39]	1891 (明治24) 頃か
VI-19	原稿用紙 (仮綴)・13枚	[植物学初步] [52~64]	1891 (明治24) 頃か
VI-20	原稿用紙 (仮綴)・12枚	[植物学初步] [65~76]	1891 (明治24) 頃か
VI-21	原稿用紙 (仮綴)・11枚	[植物学初步] [77~87甲]	1891 (明治24) 頃か
VI-22	原稿用紙 (仮綴)・11枚+半紙1枚	[植物学初步] [87乙~98]	1891 (明治24) 頃か
VI-23	原稿用紙 (仮綴)・13枚	[植物学初步] [99~111]	1891 (明治24) 頃か
VI-24	原稿用紙 (仮綴)・13枚	[植物学初步] [112~124]	1891 (明治24) 頃か
VI-25	原稿用紙 (仮綴)・14枚	[植物学初步] [125~138]	1891 (明治24) 頃か
VI-26	原稿用紙 (仮綴)・10枚	[植物学初步] [139~146]	1891 (明治24) 頃か
VI-27A	原稿用紙 (仮綴)・24枚	苔蘚ノ話	1888 (明治21)
VI-27B	原稿用紙 (仮綴)・13枚+図版1枚	苔蘚ノ話	1888 (明治21)
VI-28	原稿用紙 (仮綴)・11枚+図版1枚	陰花植物族類ノ概略	1886~87 (明治19~20) か
VI-29	原稿用紙 (仮綴)・8枚+図版1枚	蕨類, 瓶爾小草類, 観音座蓮類	1886~87 (明治19~20) か
VI-30	原稿用紙 (仮綴)・11枚+図版2枚	羊歯類	1886~87 (明治19~20) か
VI-31	原稿用紙 (仮綴)・8枚+図版2枚	木賊類	1886~87 (明治19~20) か
VI-32	原稿用紙 (仮綴)・8枚+図版1枚	車軸藻類	1886~87 (明治19~20) か
VI-33	原稿用紙 (仮綴)・8枚+図版1枚	地錢類	1886~87 (明治19~20) か
VI-34	原稿用紙 (仮綴)・23枚	植物体中物質ノ変化	1891 (明治24)
VI-35	原稿用紙 (仮綴)・20枚	植物ノ運動	不明
VI-36	原稿用紙 (仮綴)・4枚	志ざる麻ニ就キテ	1891 (明治24) か

表5 続き

内容注記
外題「遷進論一」、内題「遷進論//講義第一」。「英国動物学士ホクスレー氏」の講演「エヴォリユーション」の訳とある。
外題は「進化論」の前に朱筆で「生物」と書き足す。内題「講義第二」。
外題は「動物進化論」の「動」を朱筆で「生」と訂正。内題「講義第三」。
外題「地質学略説一」、内題「地質学略説//米国代那氏原本 矢田部良吉訳述」。
表題は「遷進論」を朱筆で「進化論」と直す。本文巻頭「講義第一」。
巻頭は「講義第二」を朱筆で「第二章」と直す。
巻頭は「講義第三」を朱筆で「第三章」と直す。
「第一部 phanerogamia 顕花部」から、「一 Clematis L. せんになせう属」中の「十 C. eriopada, Maxim. (ほそばのぼたんづる)」までを収める。
本文前に「緒言」「用例」あり。本文は「第一部 顕花部」に始まり、第一門第一類第一区の「第一科 Ranunculaceae 毛茛科」までを収める。
「第二科 Calycanthaceae 蝟梅科」から「第七科 Papaveraceae 罂粟科」までを収める。
「第八科 Cruciferae 十字花科」から「第十四科 Polygaleae 遠志科」までを収める。
「第十五科 Caryophyllaceae 石竹科」から「第二十三科 Tiliaceae 菩提樹科」までを収める。
「第二区 Disciflorae 盤花区」の「第二十四科 Lineae 亜麻科」から「第三十一科 Ilicineae 冬青科」までを収める。
「一 Thermopsis (せんだいはき属)」から「五十八 Leucaena, Benth. ぎんがふくわん属」までを収める。
冒頭「用例//今此に一植物(なでしこ)アリ……」。
【VI-14】の改稿と見られる内容だが、「二 Crotalaria, L. たぬきまめ属」の途中で終わっている。
冒頭「目次」。欄外に朱筆で「緒言ノ次ニ入ル」とある。
内容から、『植物学初歩』(1891年)の訳稿と判明する(以下、【VI-26】まで同じ)。
各葉に28から39までの通し番号あり。第5章の途中から第8章の途中までを含む。
各葉に52から64までの通し番号あり。第10章の途中から第12章の途中までを含む。
各葉に65から76までの通し番号あり。第12章の途中から第14章の途中までを含む。
各葉に77から87甲までの通し番号あり。第14章の途中から第19章の途中までを含む。
各葉に87乙から98までの通し番号あり。第19章の途中から第21章の途中までを含む。
各葉に99から111までの通し番号あり。第21章の途中から第23章の途中までを含む。
各葉に112から124までの通し番号あり。第23章の途中から第26章の途中までを含む。
各葉に125から138までの通し番号あり。第26章の途中から第29章の途中までを含む。
各葉に139から146止までの通し番号あり。第29章の途中から第30章の終わりまでを含む。
末尾に「緒言」(明治24年8月)が付属する。
『東洋学芸雑誌』91号(1889年)に同名記事あり。それによれば、「大学通俗講談会」での講演。
同上。
東京教育博物館で行われた一連の「学術講義」の原稿か。
同上。
同上。
同上。
同上。
同上。
「去ル十一月廿三日仙台第二高等学校において演述セシモノナリ」とある。『東洋学芸雑誌』123号(1891年)に同名記事あり。
『東洋学芸雑誌』122号(1891年)に同名記事あり。

表5 続き

記号 - 番号	形態・数量	表題	年代
VI-37	原稿用紙・4枚	菌類に於て動物を誘導する性質の価値	不明
VI-38	原稿用紙・3枚	Flora Japonica 日本植物編 英文 和文	1892 (明治25) 頃か
VI-39	紙縫綴・1冊 (9枚)	動物学 多節動物ノ部 第三	不明
VI-40	原稿用紙 (仮綴)・19枚	「諸君ノ知ラル、如ク植物ノ花ノ用ハ……」	1884 (明治17) か
VI-68	原稿用紙・1枚	地方ノ植物学教員ニ望ム	1890 (明治23) 頃か
VI-78	原稿用紙・4枚	植物学ヲ修ムル者ノ学ブベキ国語	1890 (明治23) 頃か
VI-89	原稿用紙・2枚	本雑誌体裁ノ変更ニ就キテ	1891 (明治24) 頃か
VI-99A	原稿用紙・8+1+4枚	日本植物新名	1892 (明治25) 頃か
VI-99B	原稿用紙・195枚	〔日本植物編〕	1892 (明治25) 頃か
VI-99C	原稿用紙・24枚	〔隠花植物〕	不明
VI-99D	原稿用紙・1+1+2枚	〔大磯で採集した植物について〕	不明
VI-100A	原稿用紙・2枚	「第一 諸子が植物標本を採集する時……」	1890 (明治23) 頃か
VI-100B	原稿用紙・2枚	地衣類	不明
VI-100C	原稿用紙・1枚	「植物家ガリケネス即チ地衣ト称スル……」	不明
VII-5A	罫紙・4枚	New or Little Known Plants of Japan. No. 15	1891 (明治24) 頃か
VII-5B	罫紙 (仮綴)・3枚	New or Little Known Plants of Japan. No. 33	1893 (明治26) 頃か
VII-7	罫紙・103枚	〔日本植物図解 第1冊第3号〕〔本文〕	1893 (明治26) 頃か
VII-8A	画用紙・5枚	〔日本植物図解〕〔図版下書きか〕	1891 (明治24) 頃か
VII-8B	罫紙・14枚	〔日本植物図解〕〔本文下書きか〕	1891 (明治24) 頃か
VII-10A	罫紙・37枚	〔日本植物図解 第1冊第1号〕〔本文〕	1891 (明治24) 頃か
VII-10B	印刷物・7枚	〔日本植物図解 第1冊第1号〕〔図版〕	1891 (明治24) 頃か
VII-10C	罫紙・4枚	〔日本植物図解 第1冊第2号〕〔本文〕	1892 (明治25) 頃か
VII-10D	罫紙・4枚	A New Japanese Prasiola	1891 (明治24) 頃か
VII-10E	罫紙・2枚	A New Japanese Wikstroemia	1891 (明治24) 頃か
VII-10F	罫紙・3枚	〔New or Little Known Plants of Japan.〕 No. 11	1891 (明治24) 頃か
VII-10G	画用紙・18枚	〔顕微鏡観察図〕	不明
VIII-1A	薄葉紙・15枚, 包紙あり	〔日本植物編〕〔挿図〕〔65~79〕	1892 (明治25) 頃か
VIII-1B	薄葉紙・21枚, 包紙あり	〔日本植物編〕〔挿図〕〔80~99〕	1892 (明治25) 頃か
VIII-1C	薄葉紙・11枚, 包紙あり	〔日本植物編〕〔挿図〕〔100~109〕	1892 (明治25) 頃か
VIII-1D	薄葉紙・20枚, 包紙あり	〔日本植物編〕〔挿図〕〔110~129〕	1892 (明治25) 頃か
VIII-1E	薄葉紙・10枚, 包紙あり	〔日本植物編〕〔挿図〕〔130~139〕	1892 (明治25) 頃か
VIII-1F	薄葉紙・10枚, 包紙あり	〔日本植物編〕〔挿図〕〔140~149〕	1892 (明治25) 頃か
VIII-1G	薄葉紙・20枚, 包紙あり	〔日本植物編〕〔挿図〕〔150~169〕	1892 (明治25) 頃か
VIII-1H	薄葉紙・10枚, 包紙あり	〔日本植物編〕〔挿図〕〔170~179〕	1892 (明治25) 頃か
VIII-1I	薄葉紙・20枚, 包紙あり	〔日本植物編〕〔挿図〕〔180~199〕	1892 (明治25) 頃か
VIII-1J	薄葉紙・20枚, 包紙あり	〔日本植物編〕〔挿図〕〔200~219〕	1892 (明治25) 頃か
VIII-1K	薄葉紙・10枚, 包紙あり	〔日本植物編〕〔挿図〕〔220~229〕	1892 (明治25) 頃か
VIII-1L	薄葉紙・10枚, 包紙あり	〔日本植物編〕〔挿図〕〔230~239〕	1892 (明治25) 頃か

表5 続き

内容注記
表紙に「柳田順子」とあり、内題「第十一篇 第三小界多生動物類」。
「花ト蟲トノ関係」(『東洋学芸雑誌』39号, 1884年)の原稿と思われる。それによれば、「理医学講談会」での講演。
『植物学雑誌』4巻45号(1890年)に同名記事あり。
『植物学雑誌』4巻43号(1890年)に同名記事あり。
『植物学雑誌』5巻47号(1891年)に同名記事(無署名)あり。
『植物学雑誌』第6巻(1892年)に連載された同名記事の一部と思われる。
「地方の植物学教員に望む」の原稿と思われる。
何らかの講演原稿の断片と思われるもの。
別題「Chamaesaracha echinata, Yatabe」「イガホ、ヅキ」、『植物学雑誌』5巻57号(1891年)に同名記事あり。
別題「Asparagus Tamaboki, nov. sp.」「タマバウキ」、『植物学雑誌』7巻74号(1893年)に同名記事あり。
「日本植物図解、第一冊、第三號目録」と題された目次部分3枚と本文100枚からなる。同書の本文全体に対応している。
標本画の下書き。「イハセキソウ」「イヌサンシヨ」「シヤラ」「ヒメイタドリ//メイゲツサウ」「ヒカゲツツジ」の5枚。うち3枚には月日が書かれている(年なし)。
内容から見て、『日本植物図解』の下書き原稿と思われる。図版【VII-8A】と一緒に包まれていた。
通し番号が振られたうち、2~5および54~86枚目の原稿。前者は序文と目次で、「日本植物図解第一冊第一号目録」の表題がある。後者は同書の「第十四版」以降の本文に対応している。
『日本植物図解 第1冊第1号』(1891年)の図版校正刷りと見られるもの。同書掲載の植物画20点をすべて含み、うち1点には再校と見られるものが付属する。
通し番号が振られたうち、12~15枚目の原稿。同書の「第二十二版」と「Plate XXIII」の本文に対応している。
別題「Prasiola japonica, nov. sp.」「カハノリ」、『植物学雑誌』5巻52号(1891年)に同名記事あり。
別題「Wikstroemia albiflora, nov. sp.」「ヒオウ」、『植物学雑誌』5巻53号(1891年)に同名記事あり。
別題「Berberis sikokiana, nov. sp.」「シコクメギ」、『植物学雑誌』5巻55号(1891年)に同名記事あり。
顕微鏡観察の彩色スケッチ(全18枚)。描かれているのは藻類が中心で、うち4枚には学名の記載がある。
包紙に「六十五ヨリ七十九」と記す。
包紙に「八十ヨリ九十九」と記す。九十四はイ・ロの2枚。
包紙に「百ヨリ至百九」と記す。百は「100」と「百」の2枚。
包紙に「百十ヨリ百二十九」と記す。
包紙に「百三十ヨリ至百三十九」と記す。
包紙に「百四十ヨリ至百四十九」と記す。
包紙に「百五十ヨリ百六十九」と記す。
包紙に「百七十ヨリ百七十九」と記す。
包紙に「百八十ヨリ百九十九」と記す。
包紙に「二百ヨリ二百十九」と記す。
包紙に「二百二十ヨリ二百二十九」と記す。
包紙に「二百三十ヨリ二百三十九」と記す。

表5 続き

記号 -番号	形態・数量	表題	年代
VIII-1M	薄葉紙・21枚, 包紙あり	[日本植物編] [挿図] [240~259]	1892 (明治25) 頃か
VIII-1N	薄葉紙・24枚, 包紙あり	[日本植物編] [挿図] [260~279]	1892 (明治25) 頃か
VIII-1O	薄葉紙・19枚, 包紙あり	[日本植物編] [挿図] [280~299]	1892 (明治25) 頃か
VIII-1P	薄葉紙・10枚, 包紙あり	[日本植物編] [挿図] [300~309]	1892 (明治25) 頃か
VIII-1Q	薄葉紙・11枚, 包紙あり	[日本植物編] [挿図] [310~319]	1892 (明治25) 頃か
VIII-1R	薄葉紙・20枚, 包紙あり	[日本植物編] [挿図] [320~339]	1892 (明治25) 頃か
VIII-1S	薄葉紙・10枚, 包紙あり	[日本植物編] [挿図] [340~349]	1892 (明治25) 頃か
VIII-1T	薄葉紙・9枚, 包紙あり	[日本植物編] [挿図] [350~359]	1892 (明治25) 頃か
VIII-1U	薄葉紙・10枚, 包紙あり	[日本植物編] [挿図] [360~369]	1892 (明治25) 頃か
VIII-1V	薄葉紙・9枚, 包紙あり	[日本植物編] [挿図] [370~379]	1892 (明治25) 頃か
VIII-1W	薄葉紙・21枚, 包紙あり	[日本植物編] [挿図] [380~399]	1892 (明治25) 頃か
VIII-1X	薄葉紙・10枚, 包紙あり	[日本植物編] [挿図] [400~409]	1892 (明治25) 頃か
VIII-1Y	薄葉紙・17枚, 包紙あり	[日本植物編] [挿図] [410~427]	1892 (明治25) 頃か
IV-8#	罫紙・1枚	「1. Importance of the study of botany...」	不明
IV-28#	標本ラベル・1枚	Schzohragma hydrangeoides. S. et Z.	1878 (明治11)
VII-6#	印刷物・1枚	地方の植物学教員に望む	1890 (明治23) か

三年生には植物各類形質論を講授し[,] 其第二年生には植物構造及び生理の大要並に其分類及び応用の一部を講授し[,] 且之に実地の試験を為さしめたり」と書かれている(カタカナをひらがなに置き換えた)⁹⁾。このような矢田部自身の報告とあわせて、これらのノートの内容を精査する必要があるだろう。

E. 原稿類 (植物学) [表5]

中川目録の「VI. 原稿類」と「VII. ノート用紙類」は、前者が毛筆・和文(大部分は原稿用紙を使用)、後者がペン・英文という外見上の違いはあるものの、基本的には何らかの原稿と考えられる点で共通する。そのため本目録では、この二つを一体的に扱い、むしろ主題によって三つに分けることにした。本類別にはそのうち、植物学に関係するものを集めた。ここに掲げたほぼすべての資料には年記がなく、表で与えている年代は、内容に基づく推定である。

進化論に関する訳稿であるVI-1~3とVI-5~7は、いずれも清書され、前者を改訂したものが後者という関係にあると見られる。矢田部には進化

論に関する著作が見当たらないが、ここで訳されているハクスリー(Thomas Henry Huxley, 1825–1895)の講演は、矢田部と親交のあった伊沢修二により翻訳・出版されている(『年譜』1889年11月23日の項を参照)。同様に、VI-4はアメリカのデーナ(James Dwight Dana, 1813–1895)の教科書を訳したものと思われるが、明治初期に別の人物によって翻訳・出版されている。これらの訳文の比較などは、まだ行われていない。

矢田部の遺作であり主著とも言える『日本植物編』(1900年)については、複数の本文草稿が見出せる。最もまとまっているのはVI-9~13であり、VI-8とVI-15はその下書きという印象を受ける。他方、VI-14とVI-16はともに「第三十九科 Leguminosae 豆科」の表題を持ち、前者の改稿が後者であるように見受けられるが、実際に刊行された『日本植物編』は第三十八科までで終わっているため、未出版の内容と推測される。これらに加え、VI-38も同書の下書きの一部と思われるほか、中川目録で「VI-99. 日本植物新名用の原稿」となっていた資料を精査したところ、大部分は『日本植物編』の原稿と見られることが判明した

表5 続き

内容注記
包紙に「二百四十ヨリ二百五十九」と記す。二百五十三はイ・ロの2枚。
包紙に「二百六十ヨリ二百七十九」と記す。 二百六十六は「二百六十六」と「266」の2枚。二百六十七、二百七十五、二百七十七も同様。
包紙に「二百八十ヨリ二百九十九」と記す。二百九十八欠落。
包紙に「三百ヨリ至三百九」と記す。
包紙に「三百拾ヨリ至三百十九」と記す。三百十四と三百十五の間に番号記載のない1枚あり。
包紙に「三百二十ヨリ三百三十九」と記す。三百廿四、三百三十八欠落。三百三十六と三百三十七の間に番号記載のない1枚あり。
包紙に「三百四十ヨリ三百四十九」と記す。
包紙に「三百五十ヨリ至三百五十九」と記す。三百五十七欠落。
包紙に「三百六十ヨリ至三百六十九」と記す。
包紙に「三百七十ヨリ至三百七十九」と記す。三百七十三欠落。
包紙に「三百八十ヨリ三百九十九」と記す。三百九十四と三百九十五の間に番号記載のない1枚あり。
包紙に「四百ヨリ四百九」と記す。
包紙に「四百十ヨリ至四百廿七」と記す。四百十七、四百廿四欠落。四百十六と四百十八の間に番号記載のない1枚あり。
年月日等の記載なし。11項目からなるメモ書き。ノート【IV-8】に挟まっていたが、関連性は不明。
東京大学理工部の標本ラベル。和名ユキカズラ。1878年7月に函館で採集したとの記載がある。 ノート【IV-28】に挟まっていたが、関連性は不明。
『植物学雑誌』4巻45号（1890年）に同名記事あり。本資料はその別刷と思われる。 紹介状【VII-6】に挟まっていたが、関連性は不明。

〔VI-99B〕。これらの原稿間の関係を明らかにすることは今後の課題である。

『日本植物編』に使用された図版についても、原画と見られるものが大量に遺されている。これは中川目録では一括されていたが、資料の形態としては10～20枚程度のペン画が和紙に包まれ、包紙にそれぞれ「六十五ヨリ七十九」などと記されていることから、本目録ではこれを単位として記載した〔VIII-1A～Y〕。全体では65番から427番までの図版がほぼ揃っているが、わずかに欠けているものもある。また反対に、同じ番号の画が複数存在する例もある。これらの挿図の作者は、矢田部の日記の記述から、画工・西野猪久馬と考えられる（『年譜』1892年1月8日の項を参照）。

筆者らは先に、矢田部の日記などに基づき、『日本植物編』の成立経緯を次の通り把握した（『年譜』）。すなわち、1891年7月の時点で初部は脱稿済であると言われており、同年12月には「文部省の依頼により」著述することが改めて決まった。翌92年1月からは、西野による挿図の作成が始まった。同年9月1日には文部省に草稿計4冊が渡され、翌月には原稿料が支払われている。そうす

ると、原稿の提出から刊行まで実に8年以上もかかったことになるが、この理由は不明である。いずれにしても、この経緯と上述の原稿の中身とを突き合せた更なる検討が望まれる。

矢田部のもう一つの主著と言うべき『日本植物図解』（第1冊第1号～第3号、1891～93年）についても、部分的に原稿が確認された。すなわち、〔VII-10A〕〔VII-10C〕〔VII-7〕はそれぞれ第1号、第2号、第3号の本文であり、〔VII-8B〕は下書きの一部と思われる。図版については、第1号の校正刷と見られるもの〔VII-10B〕（数箇所朱筆あり）のほか、最近になって、下書きあるいは原画と見られる5枚の図〔VII-8A〕が新たに確認された。これらの図を描いたのは、画工の渡部鋹太郎と考えられる¹⁰⁾。

著書の前稿としては、このほか、〔VI-17～26〕がまとまった内容であり、文面から『植物学初歩』（1891年）の訳稿と同定される。ここまで述べた『日本植物編』『日本植物図解』『植物学初歩』以外の著書の前稿と見られるものは、資料中に確認されなかった。

『植物学雑誌』に掲載された論文・論説の前稿もいくつか存在する。筆者らが『年譜』で示した

ように、矢田部は1890（明治23）年に女子教育や盲聾教育から身を引き、植物学に専念して、日本の研究水準を欧米に並ぶまでに引き上げることを目指した。そこでまず書かれた論説のうち、「植物学を修むる者の学ぶべき国語」〔VI-78〕と「地方の植物学教員に望む」〔VI-68, VI-100A, VII-6#〕については、原稿と見られるものが伝わる。矢田部はさらに「泰西植物家諸氏ニ告グ」（これは原稿を見出せない）において、日本植物の記載を欧米の研究者に頼らずに本誌上で始めると宣言し、そのために『植物学雑誌』を縦書きから横書きに変更した（「本雑誌体裁ノ変更ニ就キテ」，原稿〔VI-89〕）。矢田部が実際に発表した記載論文やそれに準ずる記事の原稿としては、掲載年月の早い順に、〔VII-10D, VII-10E, VII-10F, VII-5A, VI-99A, VII-5B〕の6編が確認された。

植物に関する講演や、一般向けの記事の原稿も、少なからず遺されている。そのうち〔VI-27A, B, VI-34, VI-36, VI-40〕については対応する出版物が同定できたが、同種のものと思われる〔VI-35, VI-37, VI-100C〕などは何の原稿であるか不明である。

講演原稿の中でも、〔VI-28～33〕は同じ体裁でまとめられており、10枚前後の本文に、1, 2枚の図版が付属する。これは東京教育博物館で行われた一連の「学術講義」の原稿ではないかと考えられる。この「学術講義」は「博物館施設が組織的に実施した最初の科学講習会」とされるもので、1884（明治17）年から88（明治21）年までのあいだにのべ18科目が開講され、矢田部は86（明治19）年の第2期と87（明治20）年の第1期に、植物学の講師を務めていた¹¹⁾。筆者らは先に、矢田部の日記中にこの講義の記述があることを見出し、少なくとも86年10月2日から翌年4月2日まで、月1回程度のペースで講義していたことを指摘したが（『年譜』1886年10月2日の項を参照）、本資料との関係には思い至らなかった。しかしその後、『東洋学芸雑誌』明治19年12月号に「教育博物館の講義」と題する記事が掲載され、矢田部の講義について書かれているのを見出した¹²⁾。それによれば、矢田部の講義は「隠花植物族類の概略」と題するもので、西洋の植物学者が各々主張する分類にこだわらず、分かりやすさを優先して高等な族類から下等なものへ進んでいく。すでに「石松類、羊齒類、木賊類、瓶爾小草類、観音坐〔座〕蓮〔= 竜髭帯〕類、蘋類、地銭類、土馬騷類」の講義を終え、「菌類、藻類の如き最も面白き

族類」は翌年に持ち越される。説明する内容は「外形、構造、生殖器、發育の方法等」で、実物や図画を見せるだけでなく「自ら黒板に略画を画きて口頭の説明を補助」するという（便宜のため、ルビを補って引用した）。この記述は、本資料の表題・内容とよく一致している。

〔VI-39〕は表紙に「柳田順子」（矢田部の二人目の妻）の名前があるため、矢田部本人のものではないと思われる。おそらく女学校時代の学習ノートであろう。

F. 原稿類（学務）〔表6〕

ここに集めたのは、矢田部が就いたさまざまな教育関係の職務上、作成されたと考えられる文書・原稿である。具体的には、東京大学、東京高等女学校、東京盲啞学校、高等師範学校の各校と、教員学力試験に関するものが見出される。

〔VI-47〕は、中野による東京大学史の研究に使用され、部分的に翻刻されている。それによれば、本資料は学長と教頭の職務上の関係を明確化しよう要望した文書の控えと考えられ、「新設のこの教頭職が当時どのように考えられていたかを示す、現在のところ唯一の史料」である⁴⁾。

G. 原稿類（教育・時事）〔表7〕

この類別は、上に述べた植物学や学務に関係する以外の原稿およびそれに類する資料である。教育に関する論説や、時事に即したエッセイのような内容が中心で、特に『Rōmaji zasshi（羅馬字雑誌）』掲載記事の原稿が目立つ。しかしながら、往往にして断片的で、全体としては清書というより下書きの性格が強い資料群であることも手伝い、すべての原稿について発表先を同定することは、今回の調査では叶わなかった。今回筆者らが資料との全面的な照合を試みたのは、矢田部が執筆活動の主要舞台とした3誌（『東洋学芸雑誌』『Rōmaji zasshi』『国の基（国乃もとゐ）』）の署名記事が中心である。その他の雑誌や、無署名記事、とりわけ新聞記事との照合は残された課題である。

また『Rōmaji zasshi』について、「Iwanami Gorō」名義の原稿〔VI-81, 92, 93〕や無署名記事の原稿〔VI-73, 79, 96, 97, 100I, 100K〕が資料中に散見される点は、注目に値するであろう。すなわち、矢田部は同誌のいわば主筆であったために、時に余白を補う必要から、あるいはまた別の思惑から、自身の名を伏せて執筆を行っていた可能性が高い

表6 原稿類 (学務)

記号 - 番号	形態・数量	表題	年代	内容注記
VI-47	半紙 (仮綴) ・ 2 枚	教頭ノ職務ニ付伺	1886 (明治 19)	明治 19 年 5 月 6 日付。「理科大学教頭矢田部良吉」と「工科大学教頭心得志田林三郎」の連名で、文部大臣森有礼に宛てている。
VI-48	半紙・6 枚	高等師範学校将来ノ 方針ニ関スル覚書	1895 (明治 28) 以降か	
VI-49A	紙綴綴・1 冊 (6 枚)	[東京高等女学校 卒業式式辞]	1890 (明治 23) か	「本日ハ本校第五回ノ卒業式ヲ挙行スルニ方リ……」と書き出す。内容から、東京高等女学校の卒業式で読まれたと考えられ、「第五回」であるため明治 23 年と推察される。
VI-49B	原稿用紙・3 枚	[東京高等女学校 卒業式式辞]	1890 (明治 23) か	【VI-49A】の下書きと見られるもの。
VI-49C	原稿用紙・1 枚	[東京高等女学校 卒業式式辞]	1890 (明治 23) か	「本日ハ当校第__回ノ卒業式ヲ挙行スルニ当リ……」と書き出す(__ は 1 字アキ)。【VI-49A】と似るが、文面に相違も多い。
VI-50	原稿用紙・4 枚	[東京盲啞学校卒業式 式辞]	1890 (明治 23) か	「本日ハ当校第三回ノ卒業式ヲ挙行スルニ当リ……」と書き出す。内容から、東京盲啞学校の卒業式式辞と見られる。
VI-60	原稿用紙・3 枚	[学生会発足に際して の祝辞]	1886 (明治 19) か	「帝国大学即チ元ハ東京大学ト称シタル日本唯一ノ大学校卒業学士ガ結合シテ會ヲ設ケ……」と書き出す。内容から、学生会発足当初の集会で読まれた祝辞と見られる。
VI-61	原稿用紙・6 枚	[教員学力試験終了後 の挨拶]	1887 (明治 20) 頃か	「此度師範学校中学校高等女学校教員学力ノ試験ガ完結イタシマシタニツキマシテ……」と書き出す。同試験委員としての挨拶原稿であることから、明治 20 年頃のものと考えられる。
VI-62	原稿用紙 (仮綴) ・ 13 枚	[東京大学学位授与式 式辞]	1882 (明治 15) か	「十数年来我邦ノ進歩ハ実ニ驚駭スベキことナルハ……」と書き出す。東京大学学位授与式式辞 (『学芸志林』11 卷所収) の原稿と考えられる。
VI-63	原稿用紙・4 枚	[東京大学改革提案]	1880 (明治 13)	明治 13 年 10 月付で、「東京大学法理文学部総理加藤弘之」に宛てたもの。「良吉窃ニ聞ク頃者銀幣紙幣価格ノ差甚ダシキヲ以テ……」と書き出す。財政危機に際して、一部の学科の廃止を提案する内容。
VI-65	原稿用紙・5 枚	[中学校師範学校教員 学力試験について]	1886 (明治 19) か	「文部省ニ於テ毎年一度中学校師範学校教員学力試験ヲ施行セラル、ことハ……」と書き出す。「去年」との比較があることから、第 2 回 (明治 19 年) のものである可能性が考えられる。
VI-72	原稿用紙・3 枚	本学年間学科課業	1884 (明治 17) 以降か	生物学 (主に植物学) の授業の概略を記す。本文中に「助教教授大久保三郎」と出てくることから、大久保の助教授任官 (明治 16 年 12 月) 以降のものと分かる。
VI-74	原稿用紙・4 枚	英語専修科	1895 (明治 28) 以降か	第 1 年から第 3 年までの課程と「学科表」の案を記す。内容から考えて、高等師範学校時代のものか。

のである。この点をふまえた『Rōmaji zasshi』の詳細な分析がなされて初めて、矢田部の執筆活動の全容は明らかになるといえる。なお、『Rōmaji zasshi』の原稿とはいえローマ字表記のものはほとんどなく、ほぼすべてが漢字交じり仮名書き文で書かれている。和紙の原稿用紙に毛筆で書かれたものが大部分である。

これらと異なり、Ⅶ-1~4は罫線の入った洋紙にペンで書かれた英文原稿であり、紙とインクの質感を同じくする。Ⅶ-4は矢田部がコーネル大学の卒業祝賀会で発表したエッセイであることが

知られていることから (『年譜』1876 年 6 月 15 日の項を参照)、ほかのものと同じく留学時代のものと推察される。なお、このⅦ-4とⅦ-2の 2 点については、中川による翻刻・紹介がある^{13), 14)}。

Ⅶ-9Bは、矢田部良吉資料の中では珍しく、詩作に関するものである。英文と和文があり、オリジナルなのか何かを書き写したものなのか、既発表作であるのかなどは未検討である。これは中川目録で「Ⅶ-7. 覚書類」と一括されていた中から、今回新たに見つかった。同じく発見されたⅦ-9Cは短い新聞記事の切り抜きとそれを英訳したも

表7 原稿類（教育・時事）

記号 -番号	形態・数量	表題	年代
VI-41A	原稿用紙（仮綴）・5枚	学校の存廃は軽率に定むべきものに非ず	1891（明治24）か
VI-41B	原稿用紙（仮綴）・7枚	学校ノ存廃ハ軽率ニ定ムベキモノニ非ズ	1891（明治24）か
VI-41C	原稿用紙（仮綴）・6枚	学校ノ存廃ハ軽率ニ定ムベキモノニ非ズ	1891（明治24）か
VI-42	原稿用紙・4枚	大日本教育会諸君ニ望ム	1886（明治19）か
VI-43	原稿用紙・5枚	日本ノ学者ノ位置ハ容易カ將困難カ	1886（明治19）か
VI-44	原稿用紙（仮綴）・19枚	教育上の釣合	1887（明治20）か
VI-45A	原稿用紙（仮綴）・12枚	教育と学問	1891（明治24）か
VI-45B	原稿用紙（仮綴）・16枚	教育と学問	1891（明治24）か
VI-45C	原稿用紙・1枚	教育と学問	1891（明治24）か
VI-46	原稿用紙・6枚	学者の職分	1890（明治23）か
VI-51A	原稿用紙・3枚	[幹事矢田部良吉君の報告]	1887（明治20）か
VI-51B	原稿用紙・3枚	[幹事矢田部良吉君の報告]	1887（明治20）か
VI-52	原稿用紙・3枚	[幹事矢田部良吉氏の報告]	1890（明治23）か
VI-59A	原稿用紙（仮綴）・4枚	学校言葉に就きて	1891（明治24）か
VI-59B	原稿用紙・5枚	学校言葉に就きて	1891（明治24）か
VI-59C	原稿用紙・5枚	学校言葉に就きて	1891（明治24）か
VI-64	原稿用紙（仮綴）・14枚	[教育と学問]	1891（明治24）か
VI-66A	原稿用紙・2枚	コホ氏結核治療新薬ニ付伊藤篤太郎氏ノ説	1891（明治24）頃か
VI-66B	原稿用紙・1枚	コホ氏略伝	不明
VI-67A	原稿用紙・1枚	幽霊学者	不明
VI-67B	原稿用紙・1枚	吹くなかれ	不明
VI-69	原稿用紙・1枚	休暇中の楽み	1891（明治24）か
VI-70	原稿用紙・2枚	里見氏ノ日本文典	1886（明治19）頃か
VI-71	原稿用紙・2枚	日本文章論	不明
VI-73	原稿用紙・2枚	日本ノ学者ハゴマカシニ非ズンバ其幅キカズ	1890（明治23）か
VI-75	原稿用紙・1枚	速ニコホ氏發明ノ肺病治療所ヲ設クルノ方案	不明
VI-76	原稿用紙・1枚	ドクトル高木の脚氣論に付いて	不明
VI-77	原稿用紙・1枚	今少し穩かに□□する工風ハ無きか	不明
VI-79	原稿用紙・1枚	モルチャントオブベニスの二の舞	1890（明治23）か
VI-80	原稿用紙・4枚	謹テ書ヲ時事雜報記者ニ呈ス[我邦をして滅亡せしめざるの手段]	不明
VI-81	原稿用紙・3枚	メール新聞ヲ読ム	1887（明治20）か
VI-82	原稿用紙・3枚	羅馬字雜誌第六冊	1891（明治24）か
VI-83	原稿用紙・2枚	我邦をして滅亡せしめざるの手段	不明
VI-84	原稿用紙・2枚	[我邦ノ言葉ヲ書クニ漢字ヲヤメテ羅馬字ヲ用フルノ便利ハ……]	不明
VI-85	原稿用紙・5枚	[余ノ住宅ハ麴町区富士見町四丁目十一番地ニアリ……]	不明
VI-86	原稿用紙・6枚	慈善ノ事ハ永遠ヲ計ルベシ	1887（明治20）か
VI-87	原稿用紙・3枚	出版月報發兌ニ付所感ヲ述ブ	不明
VI-88	原稿用紙・1枚	ヒーベル氏伝教師の頌歌	不明
VI-90	原稿用紙・5枚	百聞ハ一見ニ如カスト云フ説ニ誤ラルル莫レ	1890（明治23）か

表7 続き

内容注記
『庚寅新誌』22号（1891年）に同名記事あり。資料本体に「明治廿四年一月十六日発兌、庚寅雑誌〔ママ〕第二十二号」と記す。
同上
同上
『東洋学芸雑誌』63号（1886年）に同名記事あり、加藤弘之の意見を取り挙げている。
『Rōmaji zasshi』1冊19号（1886年）に同名記事あり。
『Rōmaji zasshi』2冊26号（1887年）に同名記事あり。
『東洋学芸雑誌』114号（1891年）に同名記事あり。資料本体に「桐生教育会発表に於いて演説セシモノナリ」とあり、明治24年2月15日と記す。
同上
同上
『Rōmaji zasshi』5冊67号（1890年）に同名記事あり。
表題なし。『Rōmaji zasshi』2冊23号（1887年）掲載の「Kanji Yatabe Ryōkichi kun no hōkoku」と同じ内容。
同上
表題なし。『Rōmaji zasshi』5冊61号（1890年）掲載の「Kanji Yatabe Ryōkichi shi no hōkoku」と同じ内容。
『Rōmaji zasshi』6冊70号（1891年）に同名記事あり。資料本体に「明治廿四年三月十日発兌、羅馬字雑誌」と記載。
同上
同上
表題なし。『東洋学芸雑誌』114号（1891年）掲載の「教育と学問」と同じ内容。
伊藤篤太郎「コツホ氏新薬ノ原質如何」（『日本大家論集』3巻2号、博文社、1891年）に関するものか。
『少年園』5巻55号（1891年）に同名記事あり。
里見義『日本文典』（1886年）に関するものか。
『Rōmaji zasshi』5冊67号（1890年）に同名記事（無署名）あり。
『Rōmaji zasshi』5冊61号（1890年）に同名記事（無署名）あり。
【VI-83】と同じ内容。
署名「Rōmaji kaiinn soregashi」あり。『Rōmaji zasshi』2冊21号（1887年）に掲載する「“Japan Mail” Shimbun wo yomu」（Iwanami Gorō）と同じ内容。
『Rōmaji zasshi』6冊68号に同名記事あり。
【VI-80】と同じ内容。「麹町髭々居士」の署名あり。
『Rōmaji zasshi』2冊24号（1887年）に同名記事あり。
「尚今居士」の署名あり。朱筆校正あり。
『Rōmaji zasshi』5冊66号（1890年）に同名記事あり。

表7 続き

記号 -番号	形態・数量	表題	年代
VI-91	原稿用紙・1枚	海水浴	1890（明治23）か
VI-92	原稿用紙・4枚	一心不乱	1891（明治24）か
VI-93	原稿用紙・3枚	休暇	1890（明治23）か
VI-94	原稿用紙・3枚	一利一害ハ免カル可ラズ	1891（明治24）か
VI-95	原稿用紙・2枚	議員ノ食料ヲ改良スベシトノ説アリ	不明
VI-96	原稿用紙・1枚	新富座ノ芝居	1887（明治20）か
VI-97	原稿用紙・1枚	東京日々新聞ノオシカリ	1887（明治20）か
VI-98	原稿用紙・2枚	「我邦進歩ノ方向ハ既ニ定マリタリ……」	不明
VI-99E	原稿用紙・2枚	永く保ツ様ニスベシ	不明
VI-100D	原稿用紙・1枚	「大学教授死去時の対応について」	不明
VI-100E	原稿用紙・2枚	「今此二人ガアリマシテ桃ノ樹ト葡萄ノ樹トヲ……」	不明
VI-100F	原稿用紙・1枚	「此前此席ニテアナタ方ニオ話しタイタシマシタ時ニ……」	不明
VI-100G	原稿用紙・1枚	「会員への呼びかけ」	不明
VI-100H	原稿用紙・2枚	羅馬字会の起り	不明
VI-100I	原稿用紙・1枚	「両三年来東京ノ新聞紙上ニ毎日見ユル所ノ天気予報ハ……」	1890（明治23）か
VI-100J	原稿用紙・1枚	「芝居の改良について」	不明
VI-100K	原稿用紙・1枚	「衆議院ニモ音楽ノ教育上ノ価値ヲ知ル人アリ……」	1891（明治24）か
VI-100L	原稿用紙・1枚	「我邦廿年来政治ノ事社会ノ事工藝ノ事学問ノ事其他……」	不明
VI-100M	原稿用紙・1枚	「引用ノ贅言ナレトモ世間未ダ……」	不明
VI-100N	原稿用紙・1枚	「右二十八種の内多くは咲き残りのもの即ち……」	不明
VII-1	罫紙・9枚	The Power of a Dominant Purpose	不明
VII-2	罫紙・9枚	Liberty as the starting-points of science	不明
VII-3	罫紙（仮綴）・19枚	The Old Prometheus and the New	不明
VII-4	罫紙・20枚	A Survey of the Modern Progress in Knowledge	1876（明治9）か
VII-9B	罫紙・4組	「詩の断簡」	不明
VII-9C	罫紙・29組	「新聞記事の英訳」	不明
VII-9D	罫紙・54組	「英作文」	不明
VII-10H	罫紙・2枚	Nihon-jin no Eigo wo Warau Gaikoku-jin ni Chūi su	不明
VII-10I	罫紙・1枚	Honkai ye Kifu seraretaru zasshi oyobi Shomotsu	1892（明治25）か

の、VII-9Dは英作文と思われるもので、矢田部が自己研鑽のために行っていた可能性もあるが、学生の英語教育に関係している可能性も考えられる。

H. 辞令・文書類〔表8〕

中川目録の「X. 辞令, その他」をほぼ踏襲し、一部を入れ替えた類別である。ここに含まれる資料に関しては、ほぼすべてに年記（発行または作

成日付）がある。

矢田部が受けた辞令としては、本資料群の中ではX-1～3の3枚が伝わるのみであり、内容も矢田部の経歴に照らして重要なものではない。なぜこの3枚だけが遺されていたのかは不明である。

履歴書X-4については、『年譜』の「凡例」で言及しているので参照されたい。紹介状VII-6も、同じく『年譜』の1873年7月の項で触れている。

表7 続き

内容注記
『Rōmaji zasshi』5冊64号(1890年)に掲載する「Kaisui-yoku」(無署名)と同じ内容.
『Rōmaji zasshi』6冊69号(1891年)に掲載する「Isshin-furan no Hitsuyō」(Iwanami Gorō)と同じ内容.
『Rōmaji zasshi』5冊63号(1890年)に掲載する「Kyūka」(Iwanami Gorō)と同じ内容.
『Rōmaji zasshi』6冊69号(1891年)に同名記事あり.
『Rōmaji zasshi』2冊21号(1887年)に同名記事(無署名)あり.
『Rōmaji zasshi』2冊21号(1887年)に同名記事(無署名)あり.
教授が死去した際に大学はどう対応すべきかという内容.
女子教育に関する内容.
『Rōmaji zasshi』5冊64号(1890年)に掲載する「Tenki yohō no kairiyō wo nozomu」(無署名)と同じ内容.
『Rōmaji zasshi』6冊70号(1891年)に掲載する「Shūgiin nimo ongaku no kyōiku jō no neuchi wo shiru hito naki ni arazu」(無署名)と同じ内容.
表題部分に「Essay」および「Riokichi Yatabe, Tokei, Japan」と追記あり. コーネル大学の卒業祝賀会(class day)で発表された論説の原稿と考えられる.
ローマ字で書かれる. 『Rōmaji zasshi』の原稿か.
ローマ字で書かれる. 『Rōmaji zasshi』が各号末尾に載せる寄贈雑誌・書籍一覧の原稿か. 列挙される雑誌の巻号は, 1892年のもの.

[X-6, 7, 9]の3点は, 女子教育雑誌『国の基(国乃もとる)』の出版業務に関係した資料である. 同誌創刊号(一卷一号)には計5名の「発起者総代」が名を連ねるが, 矢田部はその筆頭であった.

[XI-3]は, 外見は書簡に似るが, 矢田部に対する改進黨からの謝罪文書である. 1889(明治22)年9月頃, 同年4~5月に連載された小説『濁世』が自身に対する誹毀(名誉毀損)にあたるとして, 矢田部は同紙を訴えていた. その後, 正式な謝罪

としてこの文書を受諾し, 訴訟を取り下げたようである(『年譜』1889年4~5月, 12月1日参照).

I. 書簡類〔表9〕

中川目録の「XI. 手紙類」をほぼ踏襲し, 一部を入れ替えた類別である. 表における「本文/消印日付」欄は, 本文と消印それぞれの情報をそのまま記入したもので, これに基づき「年」欄の情報を与えている. 当然ながら多くは来簡(矢田部

表8 辞令・文書類

記号 -番号	形態・数量	表題または件名	年
X-1	辞令・1枚	植物園監督心得	1886（明治19）
X-2	辞令・1枚	第二回中学校師範学校教員免許学力試験委員	1886（明治19）
X-3	辞令・1枚	帝国大学評議官免官	1890（明治23）
X-4	紙綴綴・1冊	[履歴書]	1888（明治21）か
X-5	印刷物・1枚	[賀詞交歓会名簿]	1888（明治21）
X-6	紙綴綴・1冊	[國の基（国乃もとゐ）] 定約書	1889（明治22）
X-7	袋綴・1冊	[國の基（国乃もとゐ）] 金銭出納報告帳	1889-90（明治22-23）
X-9	和紙・1枚	[國の基（国乃もとゐ）] 委任状	1889（明治22）
VII-6	罫紙・1枚	[紹介状]	1873（明治6）
XI-3	和紙・1枚、封筒あり	[謝罪文書]	1889（明治22）

が受け取ったもの）であるが、妻の順に宛てた手紙も計6通ある。なお、中川目録では[XI-23]以降は「その他」と一括されていたが、今回の調査で差出人をすべて同定できた。

福沢諭吉からの書簡[XI-6]は、磯野によって紹介されたように¹⁵⁾、再来日したモースを囲む宴会についての問い合わせである（『年譜』1882年6月22日の項を参照）。『年譜』では触れていなかったが、[XI-7]も同じ用件に関する手紙と見られる。

[XI-10, 11, 12]の3通は、いずれも標本を東京大学理学部（当時は帝国大学理科大学）に送る件について書かれている。矢田部は1890（明治23）年に、「地方の植物学教員に望む」を『植物学雑誌』に載せ、現地の植物を積極的に植物学教室へ送ってほしいと依頼した（『年譜』参照）。これら3通の書簡は、これに応じたものである可能性がある。

[XI-18]は矢田部本人ではなく、蘭学者であった父・卿雲（1819-1857）への来簡である。差出人の広瀬元恭（1821-1870）も同じく蘭学者であるが、両者は坪井信道（1795-1848）の下で同門であった。書簡の内容については未検討である。

[XI-20]は、中川目録では差出人が「E. Zaelz」となっていたが、正しくはお雇い外国人の医師バルツ（Erwin von Bälz, 1849-1913；資料中では「Baelz」と表記）であろう。この手紙はフェノロサ（Ernest Francisco Fenollosa, 1853-1908）に宛てられており、内容は病状に対する助言である。おそらく、フェノロサはこれを診断書として扱い、[XI-19]に同封

して矢田部に送ったのであろう。実際、後者の書簡の内容は、体調不良のため出掛けることができず申し訳ないという、ごく短い連絡文である。

[VII-9A]は、中川目録で「覚書類」と一括されていた中から発見された。「Dear President Jordan」と書き出され、文末は「Please present my best regards to my Cornell friends at your University」で終わっている。この文面から、宛先は、David Starr Jordan（1851-1931）の可能性が考えられる。この人物はコーネル大学で植物学を専攻し、矢田部の入学した1892年に修士号を得て、その後は魚類学に転じた。本資料の書かれた1895年には、スタンフォード大学の初代学長として活躍していた¹⁶⁾。

J. 弔辞・墓碑銘類〔表10〕

中川目録の「IX. 弔辞類」をほぼ踏襲した類別である。中川目録では一括して記載され、「弔客の中には、三好学、小山作之助、後藤牧太などがいる」とだけ注記されていたが、本目録では全点について、資料中に書かれている氏名・肩書を記載した。

[IX-13]は、弔辞ではなく、「理学博士矢田部良吉墓」とのみ墨書された大判の紙である。これは矢田部の墓碑銘の下書きではないかと思われる。同様に、中川目録では「XI. 手紙類」に分類されていた[XI-28]は、矢田部の墓石に彫られている文章である。

表8 続き

内容注記
[帝国大学] 理科大学, 明治19年3月9日付.
文部省, 明治19年3月10日付.
文部省, 明治23年9月13日付.
文部省の履歴用紙に書かれた履歴書. 明治28年4月4日の行から筆跡が変わり, 同32年8月8日の卒去まで記されているので, 別人が書き継いだと見られる. 冒頭署名の肩書から, 起筆は明治21年10月頃と推定される.
明治22年1月4日に鹿鳴館で開かれる立食の宴会の参加者名簿. 印刷発行は明治21年12月.
明治22年12月11日付. 「國の基雑誌発刊発起人総代 矢田部良吉」と「國の基雑誌売捌方引受人 石川保助」のあいだで交わされた契約書.
表紙に「明治廿二年十二月ヨリ//國ノ基金銭出納報告帳//國ノ基雑誌発起人」と記す. 明治22年12月分から23年3月分まで記入されている.
石川保助, 明治22年11月20日付. 雑誌『國の基 (国乃もとゐ)』の専売引受に関する一切を鹿島長次郎に委任するという内容.
「Cornell University./July 2 1873」で始まり, 「William C. Russel//Vice Pres.」で終わる. 文面から見て, コーネル大学副学長Russelが矢田部に持たせた紹介状と考えられるが, 宛名は記されていない.
岩井巻之助・水野昌幸, 明治22年11月25日付. 両名は改進黨新聞編輯人および同発行人兼印刷人. 小説「濁世」について謝罪する内容.

4. おわりに

参考文献

本目録の発表によって, 筆者らが取り組んできた矢田部良吉資料の再整理は一応終了する. 個々の資料の詳細については検討できていない部分が多く, また解説中で記したように, 今後の研究課題も多く明らかになっている. しかし, 既存の目録を改訂し, それを置き換えるという所期の目的は果たすことができただろう.

なお, ここに掲載した個々の資料の情報は, 国立科学博物館の「標本・資料統合データベース」に登録し, 公開する予定である. このデータベースの一部である「理工学資料」データベースは, 本来は工業製品などを念頭に置いて構築されており, 矢田部良吉資料のような文書・文献に最適化されていない. そのため, 本目録の内容は, 統合データベースの項目に合わせた形に再編して登録する計画であるが, 将来的には科学者資料について, データベース本体の項目を変更することも検討すべきであろう. いずれにしても, オンライン上のデータベースには紙の目録と異なり, 情報の更新が容易であるという利点がある. インターネット上の最新のデータも確認いただくとともに, 追加や修正すべき点があれば, ぜひご指摘いただきたい.

- 1) 無署名, 1975年. 「矢田部良吉博士のノート等寄贈される」. 国立科学博物館ニュース, 昭和50年6月: 2頁.
- 2) 中川徹ほか, 1978年. 「矢田部良吉資料について」. 科学史研究, 17: 114-119頁.
- 3) 太田由佳・有賀暢迪, 2016年. 「矢田部良吉年譜稿」. 国立科学博物館研究紀要E類 理工学, 39: 27-58頁.
- 4) 中野実, 1995年. 「帝国大学成立に関する一考察: 帝国大学理科大学教授矢田部良吉関係文書の分析を通して」. 東京大学史紀要, 13: 55-67頁. [のち, 『近代日本大学制度の成立』(吉川弘文館, 2003年)に収録.]
- 5) 磯野直秀, 1987年. 『モースその日その日』横浜 有隣堂 360頁, 第19章.
- 6) 田中紫枝・鈴木善次, 1988年. 「矢田部良吉における植物生理学の受容: 明治初期の生理学移植の事例」. 大阪教育大学紀要III. 自然科学, 37(1): 21-27頁.
- 7) 梁瀬健・鈴木善次, 1989年. 「矢田部ノートを通してみた明治初期の動物分類学の趨勢」. 大阪教育大学紀要III. 自然科学, 38(2): 105-112頁.
- 8) 鈴木善次, 2005年. 『バイオロジー事始: 異文化と出会った明治人たち』. 東京 吉川弘文館 197頁, 31-32頁.
- 9) 『東京大学法理文三学部第七年報 [明治11年9月~12年8月]』, 34頁.
- 10) 蔵田愛子, 2015年. 「小石川植物園の画工・渡部鍬太郎の足跡: 明治二十年代の植物学と図版制作」.

表9 書簡類

記号 -番号	形態・数量	差出→宛先	年	本文／消印日付
XI-1	本紙1枚, 封筒あり	外山正一→矢田部良吉	不明	2月13日／消印なし
XI-2	本紙1枚, 封筒あり	外山正一→矢田部良吉	不明	10月11日／消印なし
XI-4	本紙1枚, 封筒あり	嘉納治五郎→矢田部良吉	不明	3月29日／消印なし
XI-5	本紙1枚, 封筒あり	服部宇之吉→矢田部良吉	不明	日付なし／判読不能
XI-6	本紙1枚, 封筒あり	福沢諭吉→矢田部良吉	1882 (明治15)	6月16日／明治15年6月16日
XI-7	本紙1枚, 封筒あり	小幡守次郎→矢田部良吉	1882 (明治15)	6月17日／明治15年6月17日
XI-8	本紙1枚, 封筒あり	末松謙澄→矢田部良吉	1890 (明治23)	日付なし／明治23年1月23日
XI-9	本紙1枚, 封筒あり	末松謙澄→矢田部良吉	1891 (明治24)	9月25日／明治24年9月26日
XI-10	本紙1枚, 封筒なし	蜂屋定憲→矢田部良吉	1890 (明治23) か	11月19日／—
XI-11	本紙1枚, 封筒なし	伊藤貞勝[?]→矢田部良吉	1890 (明治23)	明治23年11月25日／—
XI-12	本紙1枚, 封筒なし	小笠原利孝→矢田部良吉	1890 (明治23)	明治23年11月19日／—
XI-13	本紙1枚, 封筒あり	矢田部良吉→矢田部順	1896 (明治29)	日付なし／明治29年6月18日
XI-14	本紙1枚, 封筒あり	矢田部良吉→矢田部順	1896 (明治29)	8月6日／明治29年8月7日
XI-15	本紙1枚, 封筒あり	矢田部良吉→矢田部順	1899 (明治32)	6月11日／明治32年6月13日
XI-16A	本紙1枚, 封筒あり	矢田部良吉→矢田部順	1896 (明治29)	8月8日／明治29年8月9日
XI-16B	本紙1枚, 封筒なし	矢田部良吉→矢田部順	1896 (明治29) か	8月11日／—
XI-17	本紙1枚, 封筒あり	矢田部良吉→矢田部順	1896 (明治29)	8月14日／明治29年8月15日
XI-18	本紙1枚, 封筒なし	広瀬元恭→矢田部卿雲	不明	初冬 [10月] 7日／—
XI-19	本紙1枚, 封筒あり	Ernest Francisco Fenollosa→矢田部良吉	1899 (明治32)	1899年2月14日／消印なし
XI-20	本紙1枚, 封筒あり	Edwin Baelz → Ernest Francisco Fenollosa	1899 (明治32) か	日付なし／消印なし
XI-21	本紙1枚, 封筒あり	木越安綱→矢田部順	1899 (明治32) か	8月18日／判読不能
XI-22	本紙1枚, 封筒あり	九鬼隆一→矢田部良吉	1891 (明治24)	10月2日／明治24年10月2日
XI-23	本紙3枚, 封筒あり	外山正一→矢田部良吉	不明	14日, 5月18日, 5月27日／消印なし
XI-24	本紙1枚, 封筒あり	高井好章→矢田部良吉	1899 (明治32)	4月9日／明治32年4月9日
XI-25	本紙1枚, 封筒あり	伊沢修二→矢田部良吉	1898 (明治31) か	4月2日か／判読不能
XI-26	本紙1枚, 封筒あり	澤柳政太郎→矢田部良吉	不明	8日／[判読不能] 年7月9日か
XI-27	本紙1枚, 封筒あり	平田盛胤→矢田部良吉	1890 (明治23)	2月7日か／消印なし
VII-9A	本紙1枚, 封筒なし	矢田部良吉→David Starr Jordan か	1895 (明治28)	April 5, 1895／—

近代画説, 24: 98-115 頁.

- 11) 椎名仙卓, 1988年.『日本博物館発達史』. 東京 雄山閣 366頁, 第1部第6章.
- 12) 無署名, 1886年.「教育博物館の講義」. 東洋学芸雑誌, (63): 121頁.
- 13) 中川徹, 1996年.「矢田部良吉の英文手稿: A Survey of the Modern Progress in Knowledge」. 横浜商大論集, 30: 252-262頁.

- 14) 中川徹, 2000年.「矢田部良吉の英文手稿-II: Liberty as the starting-point of Science」. 横浜商大論集, 33: 222-228頁.
- 15) 磯野直秀, 1986年.「矢田部良吉宛の福沢書簡とE・S・モース」. 福沢手帖, 48: 7-11頁.
- 16) Anon., 1932. Jordan, David Starr. *The National cyclopaedia of American biography*, 22: 68-70. New York: James T. White & Company.

表9 続き

内容注記
和歌山一中の教師採用の件について、
再来日したモースを囲む宴会について、
再来日したモースを囲む宴会について、
標本を理科大学へ送る件について、同様の趣旨の書簡がほかの人物からも届いているため、同じ明治23年のものと思われる。
標本を理科大学へ送る件について、青森県尋常師範学校の用箋を使用。
標本を理科大学へ送る件について、差出人は静岡尋常師範学校教諭。
名古屋から投函されている。
宛先住所は興津（静岡）になっている。
大阪から投函されている。
宛先住所は興津（静岡）になっている。
【XI-16A】と一緒にされていたため、同じ明治29年のものと思われる。
宛先住所は興津（静岡）になっている。
体調不良で出かけられない旨を詫げる。
日付は「Monday」とのみあり、病状に対して助言している。内容から見て、【XI-19】に同封されていたと考えられる。
矢田部死去に対する弔意を伝える。
封筒の宛名が「谷田部良吉」になっている。
日付の異なる3通の本紙が、一つの封筒と一緒に入っていた。
「高等師範学校長」の矢田部に宛てたもの。
矢田部が音楽学校主事を引き受けたことに触れているため、明治31年のものと思われる。
差出人は「第二高等学校」の所属。
平田が矢田部に転送したもの。元の差出人は「富田貢」か、雑誌『国の基』の廃刊に関する内容であることから、明治23年のものと思われる。
高等師範学校の英語教師として適当な人物を紹介してほしいと依頼する内容。書簡の下書きか。

表10 弔辞・墓碑銘類

記号 -番号	形態・数量	作者	年	内容注記
IX-1	弔辞・1通, 包紙あり	三好学 (東京帝国大学植物学教室 旧学生並び関係者総代)	1899 (明治32) 年	明治32年8月10日付.
IX-2	弔辞・1通, 包紙なし	乾環 (東京植物学会幹事, 東京植物学会会長 松村任三代理)	1899 (明治32) 年	明治32年8月10日付.
IX-3	弔辞・1通, 包紙なし	小山作之助 (東京音楽学校教授)	1899 (明治32) 年	明治32年8月10日付.
IX-4	弔辞・1通, 包紙あり	学士会	1899 (明治32) 年	明治32年8月10日付.
IX-5	弔辞・1通, 包紙あり	後藤牧太 (高等師範学校総代)	1899 (明治32) 年	明治32年8月10日付.
IX-6	弔辞・1通, 包紙あり	河野三吉 (高等師範学校附属中学校総代)	1899 (明治32) 年	明治32年8月10日付.
IX-7	弔辞・1通, 包紙あり	多田豊藏 (高等師範学校英語専修科生徒代表)	1899 (明治32) 年	明治32年8月10日付.
IX-8	弔辞・1通, 包紙あり	石野又吉 (高等師範学校生徒総代)	1899 (明治32) 年	明治32年8月10日付.
IX-9	弔辞・1通, 包紙あり	上真行	1899 (明治32) 年か	年月日を欠くが、葬儀当日 (明治32年8月10日) のものと思われる.
IX-10	弔辞・1通, 包紙あり	東京盲啞学校 啞生同窓会	1899 (明治32) 年	明治32年8月10日付.
IX-11	弔辞・1通, 包紙あり	女子高等師範学校職員	1899 (明治32) 年	明治32年8月10日付.
IX-12	弔辞・1通, 包紙なし	郡司成忠・山川一賀 (報效義会長・同会員)	1899 (明治32) 年	明治32年8月付.
IX-13	墓碑銘稿 ・1枚	不明	1903 (明治36) 年か	「理学博士矢田部良吉墓」. 矢田部の墓碑銘の下書きと見られるもの.
XI-28	墓碑銘稿 ・1枚	齋田功太郎または富岡升堂か	1903 (明治36) 年か	「嗚呼是理学博士矢田部先生之墓也…」に始まる墓碑銘の草稿. 実際の墓石には「明治三十六年八月」「従六位理学博士齋田功太郎撰//富岡升堂書//吉川黄雲刻」と刻まれている.

付録 矢田部良吉著作目録

凡例

- 一 矢田部良吉の著作（著書、訳書、雑誌所載の論説・講演録など）を、発表年月順に掲出する。連載の場合は、初回が掲載された月にのみ掲出する。
- 一 雑誌記事は、署名記事のみを採録する。原稿資料と照合した結果、無署名もしくは別名義でありながら、矢田部の著述である可能性が高いと推測される記事も存在するが、それについては資料目録を参照されたい。
- 一 新聞記事は採録しない。
- 一 書籍は 書名、出版社（発行元）を記す。
- 一 雑誌記事は 記事名、媒体名、掲載巻号、頁数を記す。
- 一 頻出する雑誌名については、以下の通り略記する。

東芸=『東洋学芸雑誌』、植物=『植物学雑誌』、羅馬=『Rōmaji zasshi』

- 一 訳著や共著の場合は、書名（記事名）の左上に*印を付したうえ、執筆者情報を付記する。講演録について速記者・筆録者が明示される場合も、同様に付記する。
- 一 再録は判明する範囲で初出に付記する。
- 一 旧字体は原則として通行の字体に改める。
- 一 本目録の作成に際しては、主として昭和女子大学近代文学研究室「矢田部良吉」（『近代文学研究叢書 第4巻』昭和女子大光葉会、1956年、63-103頁）中の「著作年表」を参照した。

1879年（明治12）

12月

- *『大森介墟古物編』（理科会粹第1帙上冊）東京大学法理文学部（エトワルト・エス・モールス著、矢田部良吉口訳、寺内章明筆記）

1882年（明治15）

3月

「ハムレット中の一段」東芸(6), 117-118. 【再録】『新体詩抄』1882年8月

4月

「羅馬字ヲ以テ日本語ヲ綴ルノ説」東芸(7), 127-130; (8) 151-152.

6月

「鎌倉の大仏に詣でて感あり」東芸(9), 202. 【再録】『新体詩抄』1882年8月

7月

「カムプベル氏英国海軍の詩」東芸(10), 223. 【再録】『新体詩抄』1882年8月／大庭景陽『新撰軍歌抄』三谷平助 1886年12月／奥田栄世『訂正軍歌集註釈』同 1889年8月

8月

- *『新体詩抄』丸屋善七（外山正一・矢田部良吉・井上哲次郎撰）【注・再録】矢田部（尚今居士）の翻訳・創作詩は既発表の再録を含めた以下の9篇。このうち「テニソン氏船将の詩」以外の8篇は竹内節編『新体詩歌』全5集（1882～84年）に再録された。

「カムプベル氏英国海軍の詩」（訳詩、再録）

「グレー氏墳上感懷の詩」（訳詩）

「テニソン氏船将の詩」（訳詩）

「勸学の歌」（作詩）【再録】香夢楼主人『絵入新体軍歌』金盛堂 1893年6月

「鎌倉の大仏に詣でて感あり」（作詩、再録）

「シャル、ドルレアン氏春の詩」（訳詩）

「ロングフェロー氏児童の詩」（訳詩）

「シェークスピア氏ハムレット中の一段」（訳詩、再録）

「春夏秋冬の詩」（作詩）【再録】鉄拳壮夫『忠勇義烈軍歌剣舞』金松堂 1894年4月

11月

「学位授与式祝辞」『学芸志林』11, 492-504.

1883年（明治16）

2月

- *『植物通解』文部省編輯局（グレー著、矢田部良吉訳）

1884年（明治17）

2月

- *『日本植物名彙』丸善（松村任三編纂、矢田部良吉閲）

3月

「植木ノ木質環」東芸(30), 323-327.

6月

「燐光ノ原因」東芸(33), 93-95.

7月

「花ト虫トノ関係」東芸 (39), 242–254.

1885年 (明治18)

6月

『羅馬字早学び』羅馬字会

12月

「Yamato-damashii」羅馬 1(7), 55. 【再録】「日本魂」¹ 奥田栄世『訂正軍歌集註釈』同 1889年8月／香夢楼主人『絵入新体軍歌』金盛堂 1893年6月／鉄拳壮夫『忠勇義烈軍歌剣舞』金松堂 1894年4月／江東散史『絵入清国征伐軍歌』榊原盛文堂 1894年9月

1886年 (明治19)

1月

「植物ノ葉ノ話」東芸 3(52), 362–380.

「Rōmaji kai」羅馬 1(8), 57–58.

2月

「教育家の一読を煩はす」東芸 3(53), 412–416.

3月

「悲憤慷慨の説」東芸 3(54), 446–449.

6月

「帝国大学理科大学植物標品目録序 (明治19年4月付)」帝国大学編纂『帝国大学理科大学植物標品目録』丸善商社

11月

「平文氏著語林集成」東芸 4(62), 95–98.

「Korera-byō ni tsuki ichigon su」羅馬 1(18), 176–177.

12月

「Nippon no gakusha no ichi wa an-i ka hata konnan ka?」羅馬 1(19), 185–186.

「大日本教育会諸君に望む」東芸 4(63), 126–128. (大日本教育会の懇親会席上における演説, 1886年11月14日) 【再録】(「女子ノ教育」の付録として)『大日本教育会雑誌』(47), 19–22, 1887年1月

1887年 (明治20)

1月

*『Wampaku monogatari』Dai 1 羅馬字会 (Wilhelm Busch 著, 渋谷新次郎訳, 矢田部良吉・渡辺渡関)

「“Rōmaji zasshi” dai ni satsu」羅馬 2(20), 1–2.

¹ 『Rōmaji zasshi』掲載詩と異同あり.

「女子ノ教育」『大日本教育会雑誌』(47), 2–22. (大日本教育会の集会における演説, 1887年1月9日) 【再録】東芸 4(64), 147–155. 1887年1月²／辻岡文助『高名大家女子教育纂論』同 1888年7月／村上千秋編『雄弁大家教育新演説』浜本明昇堂 1892年6月

「矢田部良吉君女子教育論講演速記」『女学雑誌』(47), 126–127; (48), 146–149; (49), 166–167; (50), 187–188.³

2月

「女子教育論 (女子の教育)」『教育新誌』(159), 3; (160), 2; (161), 3–4; (162), 3.⁴

3月

「Shikitari no koto」羅馬 2(22), 25–27; 2(25), 63–65.

【再録】「仕来りの事」東芸 4(66), 241–251.

(東京高等女学校の生徒一同に対する演説, 1887年3月2日) 1887年3月⁵

4月

「Kanji Yatabe Ryōkichi kun no hōkoku」羅馬 2(23), 42–43.

5月

「Jizen no koto wa eien wo hakarubeshi」羅馬 2(24), 54–55.

7月

「Kyōiku jō no tsuriai」羅馬 2(26), 73–75; 2(28), 97–99.

*「東京婦人教育談話会」『女学雑誌』(68), 145–148. (矢田部良吉演説, 若林珪蔵筆記) 【再録】大溝吉蔵『女学演説集』磯谷書房 1888年12月

8月

「Sotsugyōsei shokun ni nozomu」羅馬 2(27), 92–93.

9月

「序 (明治20年3月付)」『帝国大学植物園植物目録』東京帝国大学

² 『大日本教育会雑誌』の発行日は1月15日, 『東洋学芸雑誌』の発行日は1月25日. よって後者を再録と判断した.

³ 前掲「女子ノ教育」と同じ演説をもとにした記事. ただし, 『大日本教育会雑誌』の掲載記事が文語調に整えられている一方, 『女学雑誌』のこの記事は, 演説口調をそのまま再現している. よって別記事として掲出した.

⁴ 前掲「女子ノ教育」と同じ演説をもとにした記事. ただし大意をまとめるかたちで再編集されている. よって別記事として掲出した.

⁵ 『Rōmaji zasshi』の発行日は3月10日, 『東洋学芸雑誌』の発行日は3月25日. よって後者を再録と判断した.

10月

「Fujin no masa ni manabubeki mono no ichi-ni」羅馬 2(29), 109–110. 【再録】「婦人の当さに学ぶべき者一二」大橋高三郎『東洋大家論説』第2集 暁鐘館 1888年6月／「婦人ノ当ニ学ブべき者ノ一二」辻岡文助編『高名大家女子教育纂論』同 1888年7月

1888年(明治21)

3月

「グレー氏ノ略伝」東芸 5(78), 155–157. 【再録】植物 2(14), 49–50. 1888年4月(肖像を付す)

5月

「Kanji Yatabe Ryōkichi kun no enzetsu」羅馬 3(36), 53–54.

9月

「女生徒の心得」東芸 5(84), 443–447. (東京高等女学校の始業に際する演説, 1888年9月15日)

11月

*『動物学初歩』丸善商社(イー・エス・モールス著, 矢田部良吉訳)

12月

*『Wampaku monogatari』Dai 2 羅馬字会(Wilhelm Busch著, 小柳津要人訳, 矢田部良吉・渡辺渡閔)

「Jogakkō no koto」羅馬 3(43), 137–139.

1889年(明治22)

1月

「Tōkyō Mōgakkō sotsugyō-shiki no enzetsu」羅馬 4(44), 9–10.

「女子教育の困難」東芸 6(88), 22–32. (大日本教育会における演説, 1889年1月12日) 【再録】『大日本教育会雑誌』(83), 98–109. 1889年2月／『教師之友』(25), 4–15. 1889年3月

3月

「女生徒の心掛くべき事」東芸 6(90), 120–124. (東京高等女学校における談話, 1889年1月11日)

4月

*「苔蘚の話」東芸 6(91), 166–181. (矢田部良吉講演, 林茂淳筆記. 大学通俗講談会, 1888年12月2日)

「国乃もとゐの発刊に就きて」『国乃もとゐ』1(1), 3–4.

5月

「目的と方法」『国乃もとゐ』1(2), 49–54.

9月

「矢田部氏の談話」『国乃もとゐ』1(6), 290–291. (東京高等女学校における談話, 1889年6月30日)

10月

「帯及び「コルセット」に就きて」『国乃もとゐ』2(7), 8–10.

「始業の話」『国乃もとゐ』2(7), 38–39. (東京高等女学校における談話, 1889年10月11日)

「Shisso oyobi kamben」羅馬 4(53), 112–113.

11月

「自殺に流行あるを知りて暗殺にも亦流行あるを知るべし」東芸 6(98), 555–558.

「Kankōba no gakumonjō no neuchi」羅馬 4(54), 126–127.

「婦人の道楽」『国乃もとゐ』2(8), 83–87.

12月

「人の名誉に対する義務」『国乃もとゐ』2(9), 141–149. (東京高等女学校における演説, 1889年11月8日) 【再録】『日本大家論集』2巻1号 1890年1月

「Meiji bijutsu kai」羅馬 4(55), 136–137.

1890年(明治23)

1月

「学校唱歌」『国乃もとゐ』2(10), 199–202.

「“Rōmaji zasshi” dai go satsu」羅馬 5(56), 5–6.

「林娜斯略伝(前号第十七版肖像付)」植物 4(35), 1–5. 【再録】「林娜斯略伝」『少年園』3(30), 155–159. 1890年1月⁶

「人の楽み」東芸 7(100), 49–51.

2月

「家内の純良」『国乃もとゐ』2(11), 254–256.

「始業式の演説」『国乃もとゐ』2(11), 294–296. (東京高等女学校における演説, 1890年1月)

「三好学氏編植物学教科書」東芸 7(101), 116–117.

4月

「Nippon wa Nippon」羅馬 5(59), 40–41.

6月

「Kanji Yatabe Ryōkichi shi no hōkoku」羅馬 5(61), 71–72.

⁶ 『植物学雑誌』の発行日は1月10日, 『少年園』の発行日は1月18日. よって後者を再録と判断した.

9月

「植物学を修むる者の学ぶべき国語」英題: Languages to be Learnt by Those Intending to be Students of Botany. 植物 4(43), 319–322.

10月

A Few Words of Explanation to European Botanists. 邦題「泰西植物学者諸氏ニ告グ」植物 4(44), 355–356.

Two New Species of Japanese Plants. 邦題「日本新種植物二種 (してうげ, ひなざくら)」植物 4(44), 356–359.

11月

「Hyaku-bun wa ikken ni shikazu” to iu kotowaza ni ayamamaruru koto nakare」羅馬 5(66), 128–129.

「地方の植物学教員に望む」英題: An Advice to Teachers of Botany in Provincial Schools. 植物 4(45), 397–398.

A New Japanese Primula. 邦題「さくらさう一種 (とさざくら〈新称〉) ニ就テ」植物 4(45), 391–392.

12月

A New Genus of the Order Saxifragaceae. 邦題「新属きれんげしやうまニ就テ」植物 4(46), 433.

「Gakusha no shokubun」羅馬 5(67), 140–141.

1891年 (明治24)

1月

「Rōmaji zasshi” dai roku satsu」羅馬 6(68), 6–7.

「学校の存廃は軽率に定むべきものに非ず」『庚寅新誌』2(22), 46–48.

A New Japanese Goodyera. 邦題「はちぢやうしゆすらんニ就テ」植物 5(47), 1–2.

A New Variety of Chrysanthemum Sinense, Sab. 邦題「さつまぎくニ就テ」植物 5(47), 2–4.

「音楽学校論」(「三博士の学校維持説」中に収録)『教育報知』(251), 17–18. 【再録】『日本大家論集』3(2), 21–27. 1891年2月

2月

「Ihi-ri ichi-gai wa manukarubekarazu」羅馬 6(69), 17–18.

「休暇中の楽しみ」『少年園』5(55), 189–193.

A New Japanese Polypodium. 邦題「おほくほしだ (新種)」植物 5(48), 35–38.

3月

「Gakkō-kotoba ni tsukite」羅馬 6(70), 31–33.

A New Japanese Sium. 邦題「ヒロハノヌマゼリ

(新種)」植物 5(49), 73–74.

「教育と学問」東芸 8(114), 144–152. (桐生教育会の発会における演説. 1891年2月15日)

4月

A New Japanese Acrostichum. 邦題「アツイタ」植物 5(50), 109–112.

5月

A New Japanese Acrostichum. 邦題「こあついた」植物 5(51), 149–151.

6月

A New Japanese Prasiola. 邦題「カハノリ」植物 5(52), 187–189.

7月

A New Japanese Wikstroemia. 邦題「ヒオウ」植物 5(53), 217–218.

8月

『日本植物図解』第1冊第1号 丸善商社書店

*『植物学初歩』丸善商社書店(フーカー著, 矢田部良吉訳)

Ferns of Japan. 邦題「日本羊歯類 第四 めうぎしだ」植物 5(54), 245–247.

9月

Yatabea japonica, Maxim., and Berberis skikokiana, nov. sp.: New or Little Known Plants of Japan. No. 10, 11. 邦題「とがくししやうま及びしくめぎ (新種)」植物 5(55), 281–284.

「安産樹」東芸 8(120), 466–468.

10月

Chamaesaracha Watanabei, sp. nov.: New or Little Known Plants of Japan. No. 12. 邦題「ふじほほづき (新種)」植物 5(56), 315–317.

Viola deltoidea, sp. nov.: New or Little Known Plants of Japan. No. 13. 邦題「たちすみれ (新種)」植物 5(56), 318–319.

Viola vaginata, Maxim. var. angustifolia.: New or Little Known Plants of Japan. No. 14. 邦題「ながばのすみれさいしん」植物 5(56), 319–320.

11月

「しぎる麻ニ就キテ」東芸 8(122), 577–579.

Chamaesaracha echinata, Yatabe.: New or Little Known Plants of Japan. No. 15. 邦題「いがほほづき」植物 5(57), 355–357.

12月

Arenaria chokaiensis, nov. sp.: New or Little Known Plants of Japan. No. 16. 邦題「テウカイ

7 目録題. 記事本編は「ヒロバアツイタ」とする.

フスマ」植物 5(58), 397–398.

「植物体中物質ノ変化」東芸 8(123), 627–637. (関東及び東北の教育者の集会における演説, 仙台第二高等中学校講堂, 1891年11月23日)

1892年(明治25)

1月

「“Rōmaji zasshi” dai shichi satsu」羅馬 7(80), 5–6.
Spiraea tosaensis, nov. sp.: New or Little Known Plants of Japan. No.17. 邦題「とさしもつけ」植物 6(59), 6–7.

Saxifraga Watanabei, nov. sp.: New or Little Known Plants of Japan. No.18. 邦題「わたなべさう(新称)」植物 6(59), 7–8; 6(60), 43–45.

「日本金糸桃科」英題: Japanese Hypericaceae. 植物 6(59), 23–28.

2月

「Nōji shikenjo ni tsukite」羅馬 7(81), 15–16. 【再録】「農事試験所に就て」『農業雑誌』17(6)(437), 81–82. 1892年2月(『Rōmaji zasshi』記事の転載である旨, 注記あり)

「日本植物新名」英題: New Names of Japanese Plants. 植物 6(60), 95–102; 6(61), 129–135; 6(62), 156–159; 6(66), 292–293. (未完)

3月

『日本植物図解』第1冊第2号 丸善商社書店
Senecio Makineanus, nov. sp.: New or Little Known Plants of Japan. No. 19. 邦題「とさのもみぢさう(新種)」植物 6(61), 115–117.

5月

Machilus Thunbergii, Sieb. et Zucc., var. japonica, Yatabe.: New or Little Known Plants of Japan. No.20. 邦題「あおがし」植物 6(63), 177–179.

Euonymus lanceolatus, nov. sp.: New or Little Known Plants of Japan. No. 21. 邦題「む⁸らさきまゆみ」植物 6(63), 179–180.

7月

Calanthe kirishimensis, nov. sp.: New or Little Known Plants of Japan. No. 22. 邦題「きりしまえびね 新種」植物 6(65), 253–254.

8月

Polygonatum amabile, nov. sp.: New or Little Known Plants of Japan. No. 23. 邦題「ヒメナルコユリ」植物 6(66), 279–280.

9月

Thalictrum Watanabei, nov. sp.: New or Little Known Plants of Japan. No. 24. 邦題「たまからまつ」⁹植物 6(67), 307–308.

Stylophorum lanceolata¹⁰, nov. sp.: New or Little Known Plants of Japan. No. 25. 邦題「ほそばのやまぶきさう」¹¹植物 6(67), 308–309.

「さゝげノ学名」英題: Dolichos umbellatus., Thumb, a synonym of Vigna sinensis, Hassk. 植物 6(67), 310–311.

10月

Cladrastis Tashiroi, nov. sp.: New or Little Known Plants of Japan. No. 26. 邦題「しまえんじゅ」植物 6(68), 345–348.

Spiraea dasyantha, Bunge, var. angustifolia.: New or Little Known Plants of Japan. No. 27. 邦題「ほそばいぶきしもつけ」植物 6(68), 348–349.

11月

Milletia purpurea, nov. sp.: New or Little Known Plants of Japan. No. 28. 邦題「むらさきなつふち(新種)」植物 6(69), 379–381.

「巴旦杏ト寿星桃」英題: The Almond and “Juseitō” (a variety of the peach). 植物 6(69), 385–388.

12月

Eugenia cleyeraefolia, nov. sp.: New or Little Known Plants of Japan. No. 29. 邦題「ひめふともも」植物 6(70), 405–407.

1893年(明治26)

1月

Dianella straminea, nov. sp.: New or Little Known Plants of Japan. No. 30. 邦題「キバナノキキヤウラン」植物 7(71), 435–437.

2月

Senecio Boninsimae, nov. sp.: New or Little Known Plants of Japan. No. 31. 邦題「しまぼろぎく」植物 7(72), 1–3.

3月

Tricyrtis nana, nov. sp.: New or Little Known Plants of Japan. No. 32. 邦題「ちやほほととぎす」植物 7(73), 39–41.

⁸ 目録題「志(し)」を記事本編により訂正した.

⁹ 目録題. 記事本編は「タマカラマツソウ」とする.

¹⁰ 目録題. 記事本編は「lanceolatum」とする.

¹¹ 目録題. 記事本編は「ホソバヤマブキサウ」とする.

4月

Asparagus Tamabōki, nov. sp.: New or Little Known Plants of Japan. No. 33. 邦題「たまぼうき」植物 7(74), 61–63.

6月

Eria Luchuensis, nov. sp.: New or Little Known Plants of Japan. No. 34. 邦題「リウキウセキコク」植物 7(76), 131–133.

7月

Trillium Tschonoskii, Maxim.: New or Little Known Plants of Japan. No. 35. 邦題「シロバナエンレイサウ」植物 7(77), 175–177.

8月

Mallotopus japonicus, Franch. et Sav.: New or Little Known Plants of Japan. No. 34[sic]. 邦題「ちやうじぎく」植物 7(78), 207–209.

9月

Senecio Syneilesis, Franch. et Sav.: New or Little Known Plants of Japan. No. 35[sic]. 邦題「タイミングサ」植物 7(79), 245–247.

10月

『日本植物図解』第1冊第3号 丸善株式会社書店

1898年（明治31）**8月**

「茗溪会総集会席上演説」『東京茗溪会雑誌』(187), 27. (東京茗溪会第16回総集会における演説, 1898年8月3日)

1900年（明治33）**12月**

『日本植物編第一冊』 大日本図書